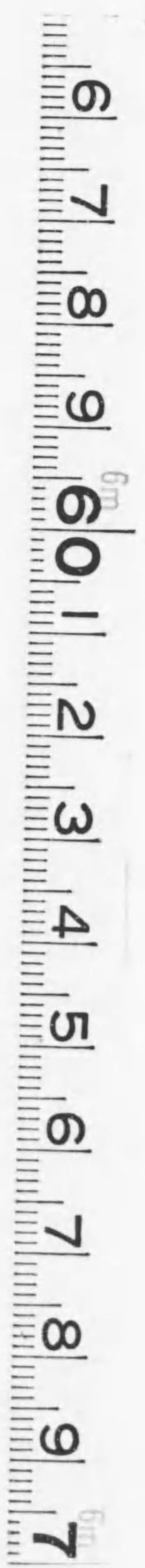


535
414



始



535-41A



職業指導
卷上

文部省
社會教育研究會編纂

文部省藏版

大正

15. 2. 18

丙午

序

世運の進展と産業の發達に伴ひ、職業の種類益々多岐に亘り其の内容も亦愈々精細を加へ、従つて適材をして適所を得しめ、以て職業上の成功を齎さしむるが爲に學校教育や社會的施設に於て職業指導（グオケシヨナルガイダンス）の運動が起るに至つた。殊に我が學校教育に於ては速に職業上の指導に就て甚深なる注意を拂ひ、即ち動作を通してする教育を工夫し、その個性と才能とに應じ適切なる職業上の指導を與へ、能くその良材を發揮せしむることの甚だ切要なるを認める。

本書は前述の言に鑑み曩に本省に於て開催したる職業指導に關

する講習會に於ける講義を蒐録したもので、一般の參考に供する爲め公刊したものである。之によつて教育上は勿論廣く社會的施設の上に職業指導上一段の進歩を見るに至らば幸とする所である。

大正十三年六月一日

文部省普通學務局

職業指導 上卷

目次

第一篇 職業指導の要諦

第一	求職は人類の本能に出づ……………	一
第二	故らに職業を指導する根據……………	二
第三	社會の需要に適應する職業に指導すべし……………	三
第四	利益多き職業に指導すべし……………	四
第五	何をか日本社會の需要といふや……………	五
第六	先づ日本の社會經濟の實狀を明にすべし……………	五
第七	日本は我々に拓地開墾業を希望す、之に次ぐは商工業なり……………	一〇

第八 商工業に關し資本家に對する註文…………… 一一

第九 基本的の商工業を確立せよ…………… 一一

第十 支那關稅問題と工業の移轉…………… 一三

第十一 粗製濫造防止の爲商工業家にごしごし洋行を望む…………… 一五

第十二 英語に次いで支那語を普及せしむべし…………… 一七

第十三 日本を工場化せしむる大計畫の策立…………… 一八

第十四 小資本家又は無資本家に對する指導…………… 二一

第十五 お役人の指導にては不可——(實地家との連絡)…………… 二一

第十六 職業の創設は先づ之を近きに求めよ…………… 二二

第十七 輸出品に關する指導…………… 二三

第十八 内地品に對する指導…………… 二四

第十九 金融關係の疎通と産業組合の獎勵に留意せよ…………… 二五

第二十 技術の講習指導は寧ろ後なり…………… 二六

第二十一 機械の購入に際しては金利關係を精算せよ…………… 二七

第二十二 指導方針の相談役は算盤なり…………… 二八

第二十三 以上述べたる事柄の總括…………… 三〇

第二十四 餘論數則…………… 三二

第二十五 國民の製造性涵養…………… 三二

第二十六 お茶の文明に沈滞する勿れ…………… 三四

第二十七 實業補習教育を起せ…………… 三五

第二十八 職業博物館を起せ…………… 三六

第二十九 技術教育に經濟的要素を加味せよ…………… 三七

第三十 生産上に於ける日本の再建…………… 三八

第一篇 職業選擇に關する心理的考察

第一 はしがき…………… 四一

第二 表出法…………… 四五

第三 品等法…………… 五五

第四 検査法…………… 六〇

第三篇 道德より見たる職業の必要指導

第一 緒言…………… 一〇七

第二 職業の概念と近世産業の發展…………… 一一〇

 (一) 職業の概念…………… 一一一

 (二) 近世産業の發展…………… 一一四

第三 職業教育…………… 一二八

 (一) 職業教育の参考書…………… 一二八

(二) 米國オハイオ州立大學の調査…………… 一二一

 一、年 齡…………… 一二三

 二、學校を終了後就職までの年月と就職の方法…………… 一二六

 三、轉職に關する調査…………… 一二九

 四、轉職の理由…………… 一三四

 五、學校教育と賃金との關係…………… 一三七

 六、職業の種類…………… 一三九

 七、賃金と經驗との關係…………… 一四一

 八、職業と希望との關係…………… 一四五

 九、結論(職業指導の必要)…………… 一四六

(三) 川越分監收容者に關する調査…………… 一四九

 一、犯罪時の職業の種類…………… 一五〇

- 二、轉職の回数……………一五四
- 三、同一業務に従事する期間……………一五六
- 四、轉職の事情……………一五八
- 五、轉職の回数と事情との關係……………一六四
- 六、犯罪質と性質……………一六七
- 七、犯罪の理由……………一七三
- 八、概括……………一七七
- (四) 貧民窟の子供の實例……………一七八
- 第四 職業指導の概念……………一八〇

第四篇 文化史より見たる職業の變遷

- 第一 緒言……………一九一

- 第二 狩獵時代……………一九三
- 第三 牧畜時代……………一九六
- 第四 農業時代……………一九八
- 第五 商工業時代……………二〇一
- 第六 産業時代……………二〇三
- 第七 職業の複雑化……………二〇七

第五篇 我が國の女子職業に就いて

- 第一 女子職業の意義……………二一九
- 第二 女子職業増加の原因……………二二三
- 第三 女子職業に關する諸問題……………二三一
- 第四 我が國女子の職業分野と其の實情……………二三五

第五 職業紹介 所より見たる女子職業…………… 二九九

第六 求職婦人の新傾向…………… 三一六

目次終

職 業 指 導 上 卷

法學博士 岡 實 述

第一篇 職業指導の要諦

第一 求職は人類の本能に出づ

人間が何等かの職業を求むるのは其の生存慾、活動慾より發する自然の衝動に依り發するのである。此の事は殆ど説明を要しないで明かである。彼の水草を追ふて移住したと云ふのが太古の状況である、何故移住したか、職業を求むるに外ならぬ、農業時代に入つては土地に對する勞作を職業とし一定の場所に定着した、商工業之に次い

で起り今や社會の最も有利なる職業となつたのである。

人類は總ての生物と同じく活きむと欲する、且つより良く活きんと欲して居る、而して一面に於ては所謂種族繁殖並に種族保護の衝動に依つて常に活動して居るのである、故に求職即ち各人が其職業を求めざる爲に行動すると云ふ事は、生存の維持其ものであるから各人は是が爲に全力を傾注しつゝあるのである。此の事を裏から見ると求職は人類の本能に出づるものであるから、他人から指導を受ける範圍は極めて少ないと謂はなければならぬ、無いことはない併ながら少ないと言はなければならぬ。

第二 故らに職業を指導する根據

諸我々は此の講習會に於て如何に彼等を職業的に指導すべき乎と云ふ問題を研究しつゝあるのである、社會の人は全力を盡して最善の職業を求め之に従事せんとしつゝあるのである、之に對して第三者が横合ひよりして之を指導せんとするは可なり六つ

かしい仕事と謂はなければならぬ、そこで吾人は先づ此の職業指導を研究する初めに於て其の指導の依て本づく所即ち指導の根據につき一應の考慮を巡らさなければならぬ。

第三 社會の需要に適應する職業を指導すべし

吾人は如何なる根據で職業を指導するのであるか、言ふ迄もなく吾々は一つの公人として社會奉仕の見地より同胞に對して指導をせやうと云ふのである。是に於てか指導の根據は少くとも二つあると考へて居るのであります。即ち彼等の職業をして國家社會が要求して居る方面に之を向けて行く、言葉を換へて言へば吾々の共同生活、共同團體は何を各人に希望して居るか、各人がどう云ふ職業に行くことを希望して居るか、此事を吾々は研究した上で其方面へ總ての人を向けて行く。此に於てか指導の第一根據と云ふものが存在して居ると考へて居るのであります。

第四 利益多き職業に指導すべし

第二の根據としては彼等の現在やつて居る事柄は如何にも利益の少ない仕事をやつて居る、若し同じ労働を用ひるならば尙ほより以上に利益を受けることが出来る、然るに彼等は偶々無智全く其事を知らないか、若くは從來の因襲に囚はれて、利益のより少なき仕事に囚はれて居る。故に其の職業よりも寧ろ他の職業の方が、大なる經濟上の利益を持ち來すのであるから此方に御出なさいと云ふ譯で、之を指導することである。

尙ほ此の外指導の根據としては他にもあることゝ存じますが、自分の見る所では先づ以上二つの根據は吾々をして職業指導の任務をどう云ふ風にやつて宜いかと云ふ方針を授ける主要なる事項でなくてはならぬと思ふ。

第五 何をか日本社會の需要と云ふや

第三、何をか社會の需要と云ふや、然らば我が日本に於ては如何なる事柄を以て社會の現需要と云ふことが出来るものであるか、言葉を換へて言へば日本帝國はどう云ふことを吾々人民に對し職業的に希望して居るか、此點を考へて見たいと思ひます。此事を考へる前に互に日本の經濟上の位置を徹底的に體得して居らなければならぬと考へます。

第六 先づ日本の社會經濟の實狀を明にすべし

日本の經濟上の位置を極めて簡単に言ひ現はすときには、太洋の上に一寸頭を出して居る一つの巖石の島山に過ぎない。其耕地面積は全面積の一割五分、世人往々日本を伊太利に例へるのですが、伊太利に於ては耕地面積が四割位に達して居る。日本ぐ

らる耕地面積の少ない國は強國中にはないのである。此の日本の國土の現状を簡單に頭に入れやうと思ふならば、吾々は鎌倉の先にある江の島を考へれば宜い、あの江の島の中に數百人若くは千數百人の人間が居るものと假想すれば宜いのであります。島の人間は島に對する愛着の念強くして容易に其島を去ることを欲しない。假令彼等の或るものは廣き天地に拔出で他の方面に職業を求めやうとしても、耕地面積の比較的に廣い富源の多き本土へは一步と雖も踏込むことを許されぬ。言葉を換へて言へば、此島の人は米國や濠洲の如き大陸に移住することが全然出來ないのである。其島に年々繁殖する人間は此島を出て他方面に新しき運命を開拓することが絶対に不可能の位置に置かれて居る。其島は維新前後より大陸の強國に壓迫されて度々其獨立を危くしかけたのであります。此に於て其の島民の得た富は陸軍の建設維持及堅艦巨砲の新造の爲に身分に相當しない巨額の負擔に任せなければならぬ。或る時は年々經費の半分は此の方の費用に費されて仕舞つたのである。斯の如き狀勢に置かれて居る江の島

は、世界の江の島たる日本は、其位置は相模の國に在るに非ずして世界の田舎……樺太即ち極東にあると見なければならぬ。日本と云ふ島國は世界文化の中心點を去ることが非常に遠いので、あの樺太に相當する所に此島があつて、其上に右申すが如き富源少き巖石の上に數千萬人の同胞が、一種の囚はれ人の如く此島に群居して居るものと見るべきである。此島人の着て居る所の浴衣一枚と雖も舶來品である。何となれば棉花は此島には生じない。此島に於て中流社會の着て居る洋服の原料も他から入つて來るのである。其島人は農業に全力を傾けて殆ど拘束されて汗水たらして働いて居るけれども、年々凡そ三億内外の金を食料品購入の爲に拂はなければならぬ。凡そ一億五千萬圓は現在の米其他の穀物の買入れ、一億五千萬圓の金は其島の土地に施す肥料の爲に海外に拂はなければならぬ。此の巨額の金は或產物となつて其島から再び輸出される資本でなくして其島人が生きて行く爲に年々海外に支拂ふ資金である。此島には石炭は出來るけれども炭質に於ては寧ろ中等以下の質しか有つて居らぬ。而も其炭

層は専門家の調べに依れば、五十年を經過すればもう經濟的に採掘し得ない状態に陥ると云ふことを豫言して居るのである。此島の職業としては幸に養蠶業があるから此方に多くの人々が従事して居ります。然れども絹以外の纖維工業は概ね原料を海外に仰いで居るのであります。水力電氣も無いではないけれども、建設原費に於て非常な高價を要すると云ふやうな次第である。一時農業時代にあつた此島は五十年以來商工時代に驀進した。然れども商工業は大正三年八月の頃に或大きな鐵壁に打當つて仕舞つた感がある。即ち此以上に作業を起して見ても、最早逆も從來のやうな利益の多き事業はないのみならず、此以上やつたならば損をするかも知れないと云ふ殆ど飽和點に達した様に見えた。時なる哉大正三年八月に大戰が歐洲に勃發して、此島には非常に多くの注文が入つて來た。此島人は非常に働いて多くの金貨を儲けた。是に於て成金時代が現出し、社會問題勞働問題が八ヶ間敷なつた。戦争が濟んで仕舞つても尙ほ其金貨が澤山あるが爲に其島人は生産よりも消費の方の癖が付いて仕舞つて、折角得

た所の金貨は今度はどしどし流れ出やうと云ふ状態に置かれてあるのであります。金貨が流れ出ると共に戦時中に興つた總ての工業は殆ど原狀に逆戻りして仕舞ひました。大正三年八月に於て有つて居つた所の事業上の収益見込は、(此収益見込は株券の價に於て代表されて居るものに限る)大正十一年六月の今日に於ては、大正三年八月の初めに於ける状態よりも悪くなつて仕舞つて居るのであります。工業に職を求めた島民は、失業の爲路頭に迷ふか然らざれば再び田園に歸つて狭き苦しき耕地を耕さなければならぬと云ふ破目に陥つた。商工業の萎靡と共に農業上の行き詰りも見へてきた。即ち小作人の收得では戦時より引き続き物價騰貴の爲到底其生計を維持することの出来ないことがあり／＼と見へて參つた。單に小作人のみならず小地主と雖も亦安心とした所の工業上の爭議は場所を轉じて今度は農村に勃發せむとするに至つたのである。

日本の經濟上の現状を世界的に廣く觀察し、且つ其の内部を精密に觀察しますと先づ大體右申した如きものなりとして大した誤りはあるまい乎と存じます。

第七 日本は我々に拓地開墾業を希望す、之に

次ぐは商工業なり

此の小さな巖骨から成立つて居る島は吾人の經濟活動として何を望むか。第一に吾々は農業の方面を考へて見ませう。農業上の職業は各地方の拓地開墾に依つて益々殖えて行くべき状態にあるかどうか。當局者の調べた所で見ますと此以上或は三十萬町歩、或は五十萬町歩の開墾は出来るかも知れない。併ながら百萬町歩或は其以上に土地を殖して、其上に農業的の職業者を移すことはむづかしいと言ふ事である。果して然らば吾々は開墾業に主力を注がなければならぬと云ふことは間違ひはないが、併ながら此方面に於て此島人の職業が非常に擴がつて來るものとは考へ得ないのであり

ます。果して農業上の職業は先が見えて居るものとしたならば、吾々は勢ひ此島の今後の新職業は萬難を排して之を商工業の方面に之を求めなければならぬことは論を待たぬことと思ふのである、然らば則ち此の方面に於て職業指導をなすに當つてどう云ふ考を根本に有つて居るべきであるか、此事を是から述べて見たいと存じます。

第八 商工業に關し資本家に對する註文

職業の指導と言つた所が相手が資本家である場合と、相手が小資本家若しくは無資本家である場合とは全然其方針を異にしなければならぬ。先づ第一段として資本家に對する職業指導の方針と云ふものは、どう云ふものでなくてはならぬか。此事を第一に御話致します。

第九 基本的の商工業を確立せよ

吾々は先づ工業の方面に於ては原料を買はなくてはならない、生きる爲には食料を買はなければならぬ。燃料を買はなければならぬ。此等の商業は我國の基本商業でなければならぬ、即ち是等のものが土臺となつて、其上に吾々は商工業の發達を初めて期することが出来るのである。我日本の社會はどうしても食料、原料、燃料等の供給を多々益々饒多ならしむる要求を有つて居る。若し是等のものが他國から豊富に此國に入つて来るならば、多くの仕事……職業を有することが出来る。前にも述べた通り我日本の社會には「空いた手」を澤山に有つて居る。假令空かないで或仕事をやつて居るにしても生産の報酬、所謂労働に對する報酬は他國に比して非常に低いものである。尤も戦時中は別です。又戦争の餘澤を受けて居る現在は例外である。吾々同胞の手は常時に於ては全く空虚であるのが多い。假令仕事をやつて居つても極めて報酬の少ない仕事をやつて居るのである。故にもし吾々にして工業上の原料、半製品、燃料等を充分に且つ安價に供給をうくる事が出来るならば是等の手、即ち労働を其方にと

しく移して来ることは容易い業である。

日本の工業上の製品は言ふ迄もなく我隣國の支那、並に佛領印度、南洋地方へ賣ることは難事ではない、之れは地の利より生ずる自然の特權である。

支那、佛領印度、南洋諸國は我國の原料供給地として最も重要な地方であるばかりでなく物を賣付ける方面に於ても、是等の地方は米國と共に離るべからざる經濟關係を有つて居るものである。果して然らば吾々は此意味に於て、資本家の職業は是等の地方に注意を向けると云ふことに常に考へて行かなければならぬ。

第十 支那關稅問題と工業の移轉

最近に至つては支那の關稅問題と云ふものが起つて參りました。從來は五分の關稅を取つて居つたのでありますが、此五分は從量税であつたが爲に事實に於ては二分又は三分位の價しか有つて居なかつたのである。然るに今回華府會議に於ては之を現實

五分に引直すと云ふことになつて參つた。其結果物に依つて違ひますけれども、或は五割増となり、或は一倍の増税となるわけである、而して將來は此の五分で止まるかと云ふとさうではない。往々は一割になり一割二分五厘にしなければならぬのである。吾々は此難關を控へて居る。吾々はどうしても支那の内地企業と云ふ事を考へて行かなければならぬことになつて來て居る順序である。

日本の工業の中で紡績工業家の中には相當の人物が居る。是等の人は既に紡績工業の一部はどうしても支那に移し、支那に於て初めると云ふ計畫を今方に立てつゝあるのであります。殊に紡績ばかりではない、其他の工業と雖も重もに支那を相手とするものに付ては、支那の關稅が益々高くなつて來る狀勢に處する爲に、支那の國境の中へ入つて仕事をする計畫を立てなければならぬことゝなると思ふ。吾々は將來支那企業といふことを新しい問題として研究しなければならぬ。

第十一 粗製濫造防止の爲商工業家にどしどし 洋行を望む

曩に私は商業の大事の相手國として支那を擧げ、佛領印度、南洋を擧げ米國を擧げたのであります。米國は御承知の通りに非常に富の有る國であつて、賣る力も買ふ力も非常に有つて居る國である。我生絲初め絹織物の重なる需要者は米國である。又雜貨類の需要者も米國であると云つて居ります。我日本の貿易は東に於ては亞細亞大陸、西に於ては米國の存在に依つて立つて居るわけである。彼の歐羅巴諸國は我輸出貿易の關係に於ては比較的小なる存在しかもつて居らぬのであります。

そこで對米關係の商業に關し資本家の職業上の指導に種々なる注意をしなければならぬ點があります。それは如何と云ふに、米國と日本とは遺憾ながら種々なる點に於て桁違ひになつて居る。民度が違ふ。此民度の違ふ結果として日本の品物が米國に出

る時に、常に被る批評は粗製濫造と云ふことでありませう。そこで從來行政廳はいやに
なる迄此等の關係當業者に對し粗製濫造を戒めて居る。然れども今日迄著しき効能は
疑はれて居る。一つは民度の相違から来る。例へば東京の日本橋の真中に樺太の豊原
で拵へた最も精巧なるものを持つて來たとする。樺太の豊原で拵へたる精巧なる品物
が、東京日本橋の真中で果して結構な品物として受取らるゝでありませうか。樺太廳
は色々な規則を拵へて取締つては見るが、或程度迄彼等の品物を精巧にすることは出
來るけれども、其程度を越えると其島人は相手の要求に應ずる知識がない、此に於て
か折角賣りかけた品物も結局賣れなくなる。將來必ず賣れなければならぬ品物も故障
があつて販路が開けないと云ふことになつて來て居る。

職業指導上粗製濫造を防止しなければならぬことは言ふ迄もないが、其方法として
は法律制度、例へば輸出品の検査制度の如きものを設けて、強壓的に折角拵へて來た
品物と雖も輸出を禁止すると云ふやうなことをやるのも、一つの方法として違ひな

いやり方ではあるが、併ながら是ればかりではいけないと私は思ふ。どうしても實業
家の頭を世界的にしなくては駄目であります。即ち彼地の文化民度に付て、徹底的の
理解を有つて居るに非ざれば、彼地に適當なるやうな品物を拵へて、彼地の嗜好に應
ずることは到底出來ないと思ひます。洋行歸りの人々を一つの發明家である様に珍重
する間は、到底文化及び民度に於て桁違ひの人間を相手に販路を開くと云ふことは難
いと思ふ。英吉利人が佛蘭西に行くが如く、獨逸人が露西亞に行くが如き心易さを
以て、日本から米國へ行き、又歐羅巴へ行かねばならぬ。洋行を以て日常の茶飯事と
同様に考へる様に導いて行くに非ざれば到底歐米諸國と商業關係を緊密にし、殊に原
料若くは半製品に非ざる既製品を彼地に出さうと云ふ計畫は、到底實蹟を擧げること
は出來ないと考へるのでありませう。

第十二 英語に次いで支那語を普及せしむべし

以上述べた所に依り教育上に於ける職業指導としては實業學校に於て支那、南洋及び米國の言葉に重きを置く。特に將來は英語と共に支那語を教へなければならぬ。歴史を教へるにしても、佛蘭西の歴史、獨逸の歴史を知るよりも支那の歴史を知り其民情風俗を一層明らかにすると云ふ事が先きでなければならぬ。佛蘭西語、獨逸語、露西亞語を學ぶより先づ支那語を話すと云ふことが先きにならなければならぬ譯である。幸ひ英語は古くより我國では行はれて居る。併ながら支那語に至つては、多數の實業家は知識がない。古の支那は比較的よく知つて居るとしても、現代の支那は殆ど知らないと云つても宜いぐらゐに知識が少ない。先般も支那の某名士が上海地方からやつて來て、日本人の支那に對する知識の無いことは悲むべきことであると云ふことを公開の席上で公言されて居つたのであります。

第十三 日本を工場化せしむる大計畫の策立

終りに工業のことにつき尙一言致しますが、我國勢の現状に察し、將來の隆運を開くが爲めには、一つ思ひ切つた大計畫を立てねばならぬと思ふ。それは今後の日本と云ふものは全部之を工場化して仕舞ふくらゐに考へて進まなければならぬと思ふ。是は非常に大きな言ひ分でありすが。左もなければ我國民は三五十年の間に行き詰つてしまふ様に思ふ。日本全部を工場にして仕舞ふ。此工場はどう云ふ種類のものであるか。先程申した通り原料が必要である。此主要なる原料は我國に缺けて居る。原料を外國に仰ぐ工業は固より之を保存し、又之を助長しなければならぬのは無論であるが、更に吾々は化學工業の方面に一般資本家の注意を向けて來なければならぬかと思ふ。而して石炭の生命は既に先きが見えて居るとしたならば、假令基本工事に非常なる金がかゝると雖も、ホワイトコール(白炭)即ち水力電氣事業を民間の資本で起すことが出來なければ公共團體又は、國自らが之を起して低廉に電力を民衆に供給する大計畫を立てねばなるまい。超努級戰艦を數隻拵へる資金を轉用したならば、全國樞要な

場所より繞多に水力電氣を供給することが出来る。軍艦が出来た所が何等生産をするものではないが、水力電氣の基本工事をやつたならば其電力は直ぐに民衆に使はるのであります。人民に安値なる動力を公けの力に依りて供給して、之に職業を授け「民に空手なからしむる」と云ふことは、日本に取つて最も必要なことであります。空手の人は國の富を消費する一方のものであります。手を空しくせずして、假令一日に十錢の物を生産しても、而して之れが爲九錢の金を日本の公共團體が使つたとしても、結局一錢だけ日本全體の利益となるのである。之を七千萬人の人口に乗すれば、年に數億の富を残すことが出来る。遊ばして置くぐらゐ損なことはない。今や動々ともすると日本には益空手が多からむとして居る。是等の人を誘ふて職業につかしむることは原料の供給を滑にし、大小機械の製造を奨勵し、之を動かす原動力たるべき電氣事業を起して低廉に各地に配付し、盛に支那南洋に對する低廉なる製品を作らしむる爲に次第に全國を工場化する積りで進むべきである。此等の問題は職業指導の根本

に横はる大問題である。取扱ふには餘り大に過ぐるの感はあるが、日本の經濟の將來を考ふるときは今日に於て大策を樹つるに非ざれば、折角に此れ迄發達した趨勢は三十年を出でずして槿花一朝の榮となることは明瞭である。

第十四 小資本家又は無資本家に對する指導

職業指導と云つた所が人各々特殊の技能があり、得意とする所が違つて居ります。又志望其のものも違つて居る。されば職業指導の内容は極めて複雑多端なものであつて、今一々分析的に之を分類列舉して研究することは出来ません。唯右に關する要諦として申上げたい二三のことを陳べて見ましよう。

第十五 御役人の指導にては不可(實地家との聯絡)

所謂御役人の指導にならないこと、若くは素人の指導にならざることを希望するの

でありませす。前垂掛けの人から見たならば、洋服を着た人の言ふことは理窟は良いけれども中々實地に行へない事が多いのである。それ故に吾々は假令御役人であらうとも其爲す指導だけは必ずや「玄人の指導」をしなくてはならないと思ふ。其玄人の指導と云ふものは一體どう云ふことから發足して來るか。私の見る所ではどうしても資本家との聯絡と云ふことが必要であらうと思ふのございます。資本家との聯絡なくして漫然特殊の技術の講習などをやつても、其品物を適當に賣り捌いて行く所の方途が安固でない場合には結局失敗に了るのであります。之に關する卑近な例は多々ある。それが爲め役人の指導も信用を失つて後がきかなくなつて仕舞ふのであります。故に私は苟も指導をしやうと云ふ以上は資本家即ち實地の事業家と絶えざる聯絡を指導者が有つて居なければならぬと思ふ。

第十六 職業の創設は先づ之を近きに求めよ

又指導者は常に其地方の需要品の種類、製造元、價格等につき不[●]斷[●]の注意を拂はねばならぬ、例へば荒物屋の店を通つて見ても此杓子は何處で出来るものだと云ふことを問ふてかゝらなければならぬ。此組板は何處の産であると云ふことを尋ねてかゝらねばならぬ。或は此茶碗は何處で出來た又は何程の値段かと云ふことを質す丈けの用意がなくてはならぬ。而して此の茶碗、杓子、組板を其の地方で拵へれば其値段で出來るか出來ぬかと云ふことを研究して居なければならぬ。他縣から入つて來るよりもどれだけ安く出来るかと云ふ算盤を取つて見て、而して後に此處に一つの地方的職業として之を推奨することが出來やうと思ふ。要するに卑近なる品物と雖も之に注意しもし其地に業を起し得れば起すことを念としなければならぬ。

第十七 輸出品に關する指導

輸出品に關する指導は内地需要品よりも一層商館との聯絡を要する。常に商館を歴

訪して外國から來る注文品の具合を調べて見なければならぬ。重なる商館の支配人と聯絡をとつて外國から注文即ち斯う云ふものが日本で出来るか、あゝ云ふものが出来るかと云ふが如き問ひ合せの状況を明にせねばならぬ。本來各商館は外國から受取つた商品の注文を得意の府縣に移して、其處で拵へさせて居るのである。其得意の府縣よりも或は各自の地方ではもつと安く供給することが出来るかも知れない。故に海外輸出品に新規な職業を求めやうとするには、海外貿易に従事する資本金、實業者との聯絡を密接にする爲常に横濱、神戸、長崎等の市場を視察し、又平素より一定の關係を結んで重要な注文事項を知り得るやうに仕かけて居なければならぬ。もしさなければ外國輸出品に付ての有効なる指導は出来ないと思ふのであります。

第十八 内地品に對する指導

以上陳べたるが如きや、り方は内地品に付ても同様である。白木屋の店の前に立つ時

三越の階上に昇る時にも鶴の目鷹の目で關係商品の研究をする心掛が必要である。是は何處で出来るか、幾らで供給して居るだらうか、本縣の物と比べて競争が出来るか出来ぬかと云ふが如き常に算盤上より研究し觀察しなければならぬのである。故に是等の大商店（大商店でなく中以下の商店でも）に現はれて居る品物に付ては其處の支配人なり、番頭なりと密接なる關係を保ち十分なる豫備知識を得て、自分の縣に於て果して供給が出来るか否やと云ふことを研究せねばならぬと存じます。

第十九 金融關係の疎通と産業組合の獎勵に留意せよ

又職業を紹介した後には、其者が又其職業に就く前には一定の資本が要るのであります。殊に工業を經營せむとする者に於て然りとする。故に職業指導に當つては常に銀行と云ふものと密接なる關係を有つて行かなければならぬ。銀行の當局者は常に警戒的態度を取つて居るのである。故に普通商業銀行は無論のこと、農工其他の特殊銀

行に到る迄、其當務者と密接なる關係を結ぶと云ふことを職業指導者は頭に有つて居らなければならぬ。而して一面に於ては銀行と關係を有せしめる爲に産業組合を創立せしめ、或は既設の産業組合にして萎靡振はざるものは振興せしめ、而して此銀行と無資本者、若くは小資本家との關係を組合の組織に依つて圓滑にして行くと云ふことを計畫しなくてはならぬと思ふ。

第二十 技術の講習指導は寧ろ後なり

之を要するに職業の指導と云へば、常に技術上の指導と云ふやうなことが一番先に立つて、動々ともすると講習と云ふやうなことを言ひ出して來るのであるが、既に成就若くは固定したものに付ては技術を改良すると云ふことも宜しいが、新規の方面に新事業を求めやうとする場合にあつては技術は最後である。何となれば技術教育は資本家自らがなす場合が寧ろ多い、例へばレースならレースと云ふものが非常に出るこ

とになつて來た。此場合に類似の品物を造つて居る府縣で新職業としてレースを拵へる場合に、縣廳なり、商業會議所なり、市役所なりで技術の講習をやるよりも、寧ろ資本家が自ら教師のやうなものを送つて、最も目的に近い、彼等の注文通りの品物を拵へさすべく實地に臨んで資本家、又は其の使用人が教導の途を採るのが多いのである。故に技術講習と云ふことは、既にある所の職業を有利ならしめやうと云ふやうな場合には必要でありませうけれども、新規事業を打立てやうと云ふ場合には技術よりも寧ろ資本家との聯絡を密にし、具體的に其注文は何であるかと云ふことを見究め、而して其注文に果して應じ得るや否やと云ふことを研究することから始めて行かなければならぬと思ふのであります。今私の述べたことに付ては面白い失敗の例が澤山あるのであります。それ等のことは今述べることを略します。

第二十一 機械の購入に際して金利關係を精算せよ

又もう一つ序に話して置かなければならぬことは、技術専門家は常に機械々々と云ふて機械の利用を奨励する。是れは如何にも尤もである。此れなければ製作技術の進歩は得て期すべからずである。さりながら日本では假令歐米諸國に於て算盤の取れる機械と雖も日本に於ては到底算盤の取れざる場合が中々に多い。即ち専門技術家の言ふことばかりを聞いても、吾々は實地にそれを施すことの出来ない經濟上の理由がある。試みに最も顯著なる一例を挙げれば、マッチ工業の如きは即ちそれである。矢張り或る程度以下は手の方が安いと云ふことになる。その結果として偶々機械を使つたならば、其機械を使つた工場の方が競争に堪へないと云ふことになつて仕舞ふ。是は先程申上げた通り空いた手の多い江の島の特殊の經濟事情である。

第二十二 指導方針の相談役は算盤なり

其意味に於て私は近時斯う云ふ考を有つて居る。法律學と言はず、經濟學と言はず

政治學と言はず、私は今日以後はどうしても多少立直す必要がある。例へば職業に係する經濟學と云ふやうなものに付ても、亞米利加で立てられた經濟論策は多くの事情に於て日本と正反對の場所を背影として出来た經濟論策であるから、此島へ持つて來ても適用が少ない事が少くない。世界中日の没するなしと云ふて居る大英國で發達した所の經濟理論と云ふものも、此島へ持つて來ても其通り適用される事柄は少ないことを知らなければならぬ。例へば植民政策と云ふやうなことも大學の講堂で論ずるのは宜いけれども、海外に移住することの出来ない所の日本、並に植民地を取得することの出来ない日本に取つては、植民政策を學理として研究することは兎に角、實地政策上の重要問題として研究する價値は認め難い。其の通りに有利の機械と雖も算盤の上から打算したならば、手の方が遙かに利益であると云ふものもあるから、此意味に於て職業指導をなすに付いても所謂技術専門の指導にならぬやうに、しなく、てはならぬ。指導は總て算盤に謀つて其方針を定めて行かなければならぬと思ふ。

第二十三 以上述べたる事柄の總括

私の職業指導に對して御話をしたいと思つた本論は、大體右様なものであります。之を要するに職業の指導は總て我國家社會の需要に適應せしむると云ふことを根據として進むこと。然して日本に於ける職業指導に付ては、日本と云ふ特殊の經濟事情を體得した上に、農商工に對する指導の方針を徹底して行くこと。農業上の開發も勿論必要はあるけれども多きを望むこと不可能であること。又商工業の指導に付ては資本を有する者の指導と、小資本若くは無資本者に對する指導とは、指導の方法を異にする。資本を有するものに對して、商工業上我日本の社會が希望する所は、支那、佛領印度、南洋並に米國、是等の國を土臺とする所の諸事業に注意の焦點を置くべきこと。何となれば是等の諸國は我が經濟政策を左右すべき位置に居るからである。既に其事が確定した以上は、總て教育方針と雖も亦此方針に準據して定めて行かなければならぬ。

ばならぬ。

小資本家又は無資本家に對しては、土地の狀況、個人の特能、其他に依つて一々具體的に各種の職業に互つて指導の方針を論ずることは不可能であるが、總括して之を見る時には所謂御役人の指導、素人の指導、技術者の指導は避けなければならぬこと。而して資本との聯絡に常に注意し、輸出品にあつては重なる輸出業國、内地商品にあつては内地の重なる消費地、即ち大都市に於ける商業に親炙し、通達し、其知識を土臺として總ての事を決定して行かなければならぬこと。同時に銀行家との聯絡を取ることを怠らず、小資本家、無資本家をして大なる資本を利用することを得せしむる爲に産業組合、信用組合、原料購入組合、其他販賣組合等も農業家に對する指導のそれと同じく、商工業の方面に於ても今後其發達を圖り、資本との聯絡を最も密接にしたいこと。斯う云ふことが指導の根本たるべき條件として私の考へて居る事柄でございます。

第二十四 餘論數則

最後に餘論として尙ほ少しく申述べて見たいことがあります。それは實業學校及び小學校と職業指導との關係であります。私は之に關し小學校及び實業學校に於ける授業に於て卑見を述べて見たいと思ひます。小學校に手工科といふものがあるのであります。現在の手工科なるものは有意義の効果を擧げて居るかどうかと云ふ問題である。

第二十五 國民の製造性涵養

私は去年の十月から十二月にかけて獨逸に居つて、彼の地の僻陬の地をも旅行して歩いたのであります。其時の感じとして、あの戰敗の獨逸は重なる工業地を或はポーランド、或は佛蘭西に奪はれて仕舞つたに拘らず、今残つて居る力を以て單に都會

と言はず田舎に到る迄煙を立て、盛んに工業をやつて居る状況を目撃したのである。其時に私の胸に浮んだ所感は、獨逸人の血液中には製造性と云ふものがあると考へた何等か拵へなければ承知しない、何等か工夫しなければ生きて居れぬと云ふやうな國民的傾向があるやうに思はれる。日本人は獨逸人の製造性と異り多少農林性を有つて居ると考へる。何となれば極く小さい土地が空いて居れば茄子を植ゑるとか、胡瓜を植ゑるとかして楽しんで居る。或は植木を弄ると云ふやうなことも農林性の然らしむ所である。此は日本人の誇りとして保存すべきであるが、併ながら國民をして製造性をより多く養はしむるに非ざれば、今後の經濟が持てない、此は先程も全國工場化の所に於て述べた通りである。それには物を「工夫して拵へると云ふ性能」を極く幼小の時、小學校時代から養成しなければならぬのである。其手工を指導して之に精神あらしむる事は我國の存立、帝國經濟の保持の上に於て緊要なる事と考へます。

第二十六 お茶の文明に沈滞する勿れ

我々日本人は「茶の文明」である。茶の文明と云ふのは茶を飲むことを好むと云ふことではない。總て日本の文化の上には少からず茶の湯の影響を受けて居る。我同胞の趣味嗜好の上には現在と雖も底深き痕跡を残して居る、色彩絢爛。本態誇耀なる西洋文物とは其形式に於ても本質に於ても大分に變つて居る。此點が日本人の嗜好に適する品物を拵へても之れが同時に外國に向かない理由であります。「お茶性」を吾々が有つて居る爲に吾々の技術は或程度に於て固定して仕舞ふと云ふ氣味がある。有らぬ色彩を使ひどう云ふ方面にでも八方無礙の進展を遂げると云ふ、さう云ふ傾向は認め難いやうに思ふ。故に手は器用であつても其拵へる品物は一定の軌道にしか走つて居らぬ。此習性を或る程度打破して該博にして且つ包括的な製造性を、國民性の中に植付くる必要なき乎。手工科を一層精神づける事に於ては非常に研究の餘地がある

と思ふ。單に獨逸許りではない、英吉利へ行つても、米國へ行つても、物を拵へることの指導に於ては實に力を盡して居る。人の拵へた物を弄ぶと云ふよりも自分が拵へると云ふことに趣味を有つ様にして居る。而して兒童をさう云ふ方面に導く爲には、有らゆる實物教育に重もきを置いて居る。特に工夫心の養成の爲幼稚園時代より種々の應用問題を與へるのである。是には色々話がありますが申上げませぬ。

第二十七 實業補習教育を起せ

尙ほ實業方面の補習學校と云ふものが如何にも少ない、文部當局は此點に於ては今非常に努力して居るやうに承知して居ります。此補習教育に依つて初めて我國人の職業が内容に於て充實を來すことが出来るのである。獨逸あたりでも八年の學科課程に於て後の二年は一定の小學校の正課を教へると共に、非常に多くの時間を職業的教育に費して居る。現にハムブルグの如き所にては、かなり精良なる機械を備へて、機械的

の作用に習熟せしむる設備が小學校内に出来て居る。同國の製造力が戦前は勿論戦後に於ても盛んな事は實に偶然ではない。職業指導固より必要であるが併ながら其根底に於ては小學教育を其の許す程度に於て現實的、實際的に近けると同時に、實業補習教育の創設に一層の力を入れると云ふことが必要であると考へる。

第二十八 職業博物館を起せ

職業指導に關する要諦の一つとして、是非公共の施設を請はなければならぬ事は職業博物館の設立である。御承知の通り歐米の大都市にはかなり多くの此の種の博物館がある。此の施設は學生にとりても又實地家にとりても多大の効益を與へて居るのである。近時職業紹介所では其の樓上に様々のものを陳列して、内職を求むる婦人連を指導して居るのもある。併し其の列品は實に貧弱にして見るに堪へない。惟ふに指導は口だけでは行かぬ。小學校及補習學校に於ても一層實物標本の購入に費用を吝ま

ざると共に此等と聯絡をこりて職業博物館を重要都市に設置することは、商品陳列館の設置に劣らざる緊要事項であると考へる。

第二十九 技術教育に經濟的の元素を加味せよ

尙ほ之と同時に必要なことは、實業學校の教員の考へ方をもう少し實地と近づけて來ると云ふ點である。動ともすると技術家と云ふ見識にのみ捉はれて仕舞つて、經濟と云ふ點に付ては第二に置いて居ると云ふやうなことが少なくないと思ふ。一つの材料を使ふにしても、此材料は一體幾らするものであると云ふことを教へて、作業をなさしめて居る者があるかどうか。此材料を使へば此價は是だけである。是は斯様に高いものであるから、算盤勘定には合はぬと云ふ様なことを呑込まして技術を練習せしめて居るかどうか。又實業學校の教員も、先程言つた所の實地家、實業家の店へ行つて色々なことを研究して居る必要がある。殆ど實地家と斷絶して居つて、自分は唯

教へれば宜いと云ふことでは學問が空氣中に吹き散つてしまふ虞れはなきや。若し私
 の見る所が誤つて居れば幸であります、往々にして右述べるやうな弊害がありとす
 れば改善の要大に之れありと思はれます。

第三十 生産上に於ける日本の 建

日本も戦後に於ては國際聯盟の重役會議に出席する四大國の一國として、世界の政
 治上に於て強大なる發言權を得たのである。然るに一面生産の側に於ける日本は漸次
 に其位置が下がりつゝある。近時聞く所に依れば、日本の實力を産業を基礎として計
 算して見ると、日本は世界の八大工業國の中へ入ることが出来ないばかりでない。十
 大工業國の中にも入ることが出来ない。現に調べて見ると十四五番位の所にあること
 ことであります。各國共今日は非常に疲弊して居るに拘らず、日本の工業力は統計上
 斯く迄下に落ちつゝある。是は吾々に取つて心外な事柄であります。でござしても今

後は先ほご申した通り民に空手なからしめると云ふことが一つ。職業をしてもつと能
 率ある、能率の大きい所に向けて行くと云ふことが一つ。さうして國家の要望する所
 の事業の方面に指導する。其指導するに付ては先程申上げた如き大體の主義を以て指
 導する。舉國一致商工業の方面に全力を注がなければ、日本が生産國として世界に位
 置を占めることは到底出来なくなる。飽く迄も全國を工場化するぐらゐの決心を以て
 み、職業指導員は其地方民の職業に適するやうな事業の調査と必要なる材料とを整
 へて、其方へ積極的に指導すると云ふやうにありたいと思ふ。私は最後に諸君の今後
 に於ける御努力を切に祈ります。

文學博士 久保良英 述

第二篇 職業選擇に關する心理的考察

第一 はしがき

輓近應用心理學の進歩は著しいもので、學校に於ける教授、管理の方面は勿論のこと、各種の會社・工場・商店に於ける作業や管理の方法から、それ等に從事する者の能力検査等に至るまで、心理學的研究法を用ゐて其の能率を擧げようと試みて居ります。しかし現時の應用心理學は在來の心理的研究法を實際社會に應用するといふよりは寧ろ吾人の精神活動の關與する人事百般のことに就て科學的研究法を試みる一の獨

立科學と見る方が適當である位多岐廣汎になつて居ります。従つて純粹心理學者からは往々異端視され、應用心理學は心理學でないと迄言ふ者もあります。しかし所謂、應用心理學的方面の研究者は勿論そんな批評には頓着せず益その研究の歩を進めて居るが、その中輓近著しくその進歩を認められたのは職業に關するものでありまして、之は世界の動亂以後經濟問題とか勞働問題とか高唱されたのに聯關して居るのは言ふまでもないのであります。

職業選擇に關する心理的研究と認められるものには種々あるが、就中主要なるものは職業の分析詳言すれば各種の職業に必要な能力の異同によつて職業を分類すること、就職せんとするもの又は已に就職せる者の人物鑑査殊に能力検査とであります。今米國シヤトル市の職業指導局で、小學校の最高級や中等學校の生徒に練習を課して居るのを見ると、就職者は勿論指導者は職業に關して如何なる智識が必要であるかゞ分かると同時に、職業心理學はこの方面に研究を進むべきかの一端が粗理解されるや

うであります。それで今その練習帳の概要を列記すると、

一、仕事に對する申込の手紙を教師に宛て、書かせる。
二、求人があれば、それに對して二三人の生徒が教師に向つてその申込をする。教師との會見は凡ての形式を守らせる。

三、申込のカードへ記入の練習をする。

四、親展書をかく。

五、會社・銀行・工場の採用試験の寫を示して練習する。

六、次のやうな言葉の説明をする。

(1) job (2) occupation, (3) vocation, (4) avocation, (5) trade (6) profession,
(7) skilled, (8) semi-skilled (9) unskilled,

七、次の項目に分けて職業を分析する。

(a) 作業の記述、(b) 其の仕事をする際の諸種の條件例へば、内・外・健康・疾病等、

(c) 作業が作業者に及ぼす影響、例へば衰弱、興奮等、(d) 賃金、手當等、(e) 昇進の機會、(f) 要求される資格、(g) 要求される練習並に今後習得し得る方法、

八、目下餘り世間に知られて居ない職業に對しては傭主に會見して尋ねさせる。

九、新聞の求人廣告を分類させる。その分類の仕方は第一は商業か工業かの分類、第二は熟練者を要するか、半熟練者でよいか、未熟者でも差支ないかの分類。

これが練習課目であります。職業指導局の方では、又此等の少年に對して、銀行・自轉車工場・輸出入商・百貨店等の二十五種のタイプの職業に就て詳細な分類表を作つて説明するといふことであります。

就職せんとする者に對する教育又は指導法としては前記の九項目で十分のやうに思はれますが、この九項目の中で職業心理學者として特に關係があり、又興味のあることは第五の従業員採用の方法と、第七の職業の分析とであります。處が第七の職業分析の方は我國では謂はすもがなであるが外國でも餘り進歩して居ない。殊に第七の中

の要求される能力や練習等に至つては、私共心理研究者の研究すべき所であるが、未だ茲で發表致す程に完全のものもありませんから、省略致しまして、主として第五の就職者の採用に用ゐらるゝテストに就て少しく述べたいと思ひます。

第二 表出法

職業選擇に就て心理的考察の必要な點は前述の如く職業の分析の外に、所謂適材を適所に置くやうにする適材の發見方法であります。適材の發見は高能者のみの榮達又は傭主のみの利益となるやうであるが、其は適材發見の方法や組織が不完全の爲めである。何人と雖程度の差こそあれ何等かの能力を有して居るから、若し完全に自己の能力の向ふ所が分かれば、その方に邁進して成功もし、又假令他の者に比して地位上又は經濟上有利でなくても自分自身に満足して従業が出来るのであります。尤も各工場で自己の目的とする職工のみを採用して仕舞ひ、それ等の能力の無いものは無職者

として飢餓に迫りはしないかといふ人もあるが、それには又他の能力を發見して適當の職業を與へるやうに公設の職業紹介所や授産場等で取扱ふやうにしなければならぬと思ひます。此等の國家的又は社會的施設に就ては本論を脱する恐があるから茲には述べないで適材發見の方法に就て述べることにします。

昔時の非科學的の時代に於ては所謂人相見とか、或は骨相學と云ふやうなものがあつたが、其もやはり表出法の中に入る譯であります。併し科學的表出法の中に骨相學を入れることは出来ない。尤も骨相學と云ふやうなものにも永い間の經驗から、或は色々な方面から生み出されて相當の關係を有つて居るものもあります、多年職工の採用をやつて居る人の如きは三十分位會合すれば、其人に對する性質をよく見抜くと云ふことを得意として居られる方が澤山あるやうであります、さういふやうに骨相や、人相などは長い間の經驗から判斷がつくやうになるかも知れない。しかし骨相學や人相學の中には大分滑稽なことを述べたものもあります、殊に支那などに行はれ

て居る人相學の本を見ますと、重もに動物等の聯想から來て居ります、例へば蛇見たいな眼だから蛇のやうな性質を有つて居る、容貌が虎狼のやうな猛烈な顔をして居るから、さう云ふ動物のやうな性質を有つて居ると云ふやうに動物から聯想をして居る。或は又多少は生理的に關係致しまして、鼻の相で人間を判斷したのもあります。詰り鼻の穴の非常に大きいのは其人に活力がある、通風が自由であると云ふので活力を示す、或は鼻が塞がると氣が鬱がると云ふ風に色々なことを言つて居る、是は支那ばかりではありませぬで、希臘古代に於きましても骨相學と云ふものがあつて、フレンジーとして現代にも傳つて居るのであります。それから又手相を観ると云ふやうなものもあります、是などは掌の筋であるとか、指紋とか云ふ方面でその者の性質や運命の判斷をした譯でありますけれども、心理學者の中には多少科學的に、手の形、その者の性格との關係を述べたものもあります。それは手の形を八種に分けて居りますが一例として代表的のものを三つばかり此處に御見せ致します。

此所に示したのは休息を示した手だと云つて居る、謂はゞ筋肉が弛緩して居る手でありませう。吾々が非常に疲れた場合に椅子などに倚つて居る人の手があゝ云ふ様な手だと申して居ります、始終あゝ云ふ手をして居るのは精神的弛緩を示すものである、

休息の手

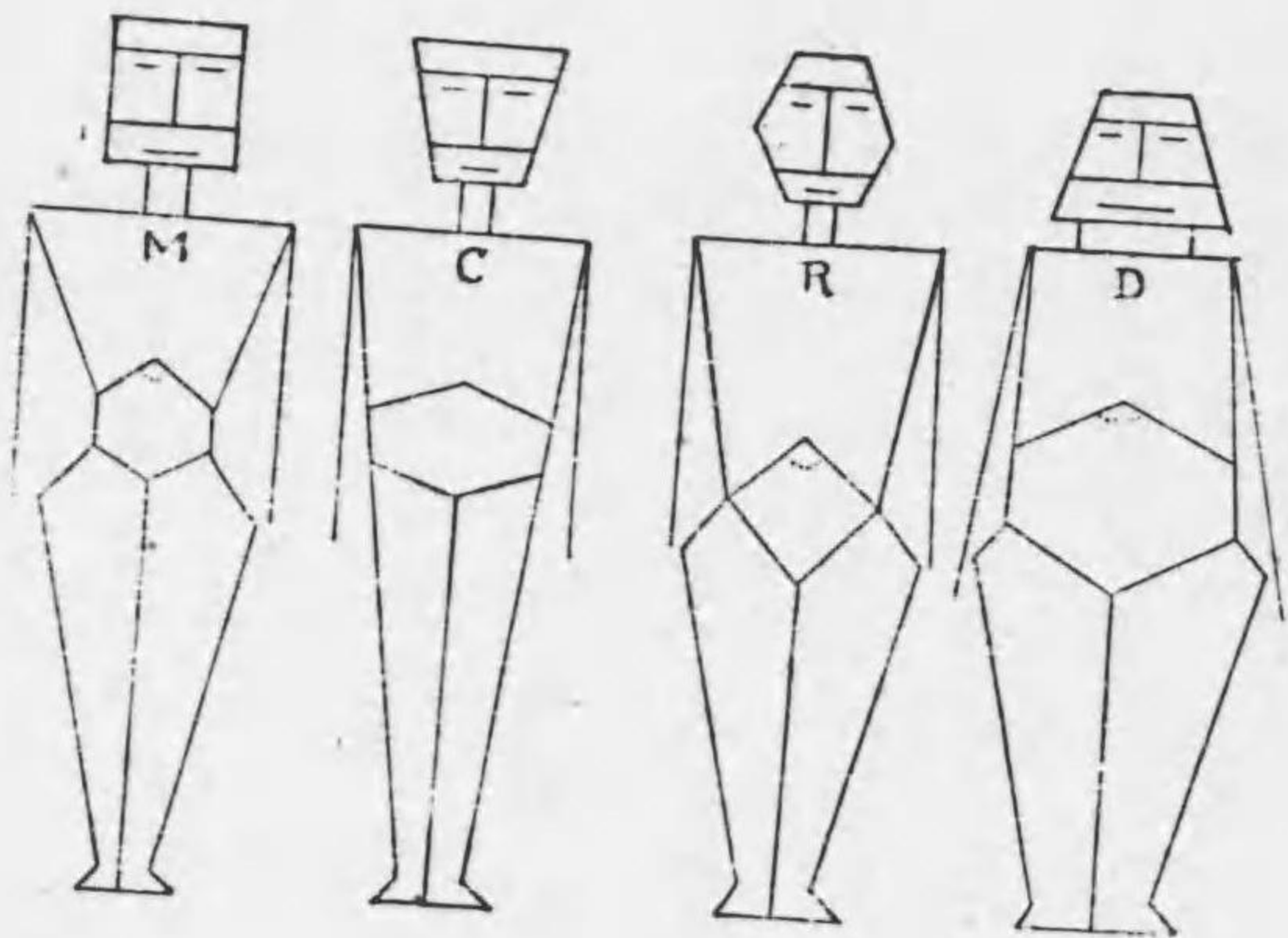
神経質の手

當惑したる際の手



何時もだらけて居る、ですから低能兒にあゝ云ふ手が多い、斯う言つて居ります。其次に示す手は神経質の手だ、斯う判断をして居る。第三に示す手は非常に困つた場合に吾々がよく斯う云ふ手をする、始終斯う云ふ手をして居

るのは苦勞性で、何だ斯だと屈託をして居る人間だと云ふのであります。是などは同じ手相でも多少科學的になつたものであらうと思ふのであります。それから又今度歐洲戦争がありました、交戦各國が一時に兵隊をどつさり募集しま



したが、その兵隊に適當な任務を與へたり、又有効の訓練を課する爲めに合衆國では精神検査をやりました。それは後に御話を致しますが、佛蘭西で生理學者が人相の方から區別をしやうと云ふやうなことを企てました、澤山な兵隊を調べた結果、兵隊には上圖のやうな四つの型を有する者があつたと云ふことを言つて居ります。この一々に

付て説明致しますと斯う言つたやうなものであります、尤も四つの氣質に分けると云ふやうなことは昔からあつた、膽汁質である、或は粘液質である、神經質である、多血質であると云ふやうなことは希臘古代から申された分類でありますけれども、茲に示す分類は從來のご全く其趣を異にしたもので、謂はゞ一新機軸を出したものであります

す。此の型式に屬する者は消化型、又は腹型と稱へられるものであります。是は腹と顎が非常に大きくて顔は三角形をして居る、其人の健康と能力と云ふやうなことは其人の消化状態に依る、外のことはどんな苦みにも平氣で居るけれども、唯腹のへるごとく、喉の渴くことにはどうしても、堪へきれないタイプだ、さう云ふやうな譯でありますから防禦的方面には適して居るけれども、進撃的の兵隊が先へ突貫して進むと云ふやうな方面に於ては餘り効力はない、攻撃して來た者に對して、落着いて撃退すると云ふやうな方面に威力を有つ、保守的の子供らしい所があると言つて居ります。其次のRにて示す型は呼吸型であります、呼吸型と云ふのは胸が凹んで身體が長く咽喉が長い、顔は真中が擴つて上と下とが尖つて居る、此タイプの者は多くの空氣を要する、どんな病氣に罹つても空氣を良くすると治つて行く、だから此人のエネルギーは酸素の吸入に基くのである、氣候の變化には堪へる、乾いた空氣とか云ふものには非常に感じ易い、併し呼吸型でありますからして風に曝されることを非常に喜ぶ、其

人の氣分の變化は呼吸状態に依る、肺を擴げる運動を非常に喜ぶ、さう云ふ譯でありますから斯う云ふやうな兵隊は飛行機乗りにしたり、登山をやらすと云ふやうな方面に於て非常に良い、攻撃に長じて冒險的であるが、機械的と單調とには非常に困る、だから墮壕生活には多少堪へるけれども、食物の缺乏よりは空氣の缺乏と云ふやうなことで非常に困ると言つて居ります、呼吸型でありますから音聲が良くて音樂が好きである、斯う言つて居ります。第三はMにて示すもので筋肉型、運動型、是は手足が長くて丈夫である。胸は長くはないけれども良く發達して太い、頭が四角で三方面凡て同長をし、筋肉が他の者より發達して居る、運動競技と云ふやうなものが此タイプの者には非常に必要である、運動をさせないと云ふと憂鬱症に陥つたり、呼吸器、消化器血行、或は神経と云ふやうな方面の病氣に罹かる、だから斯う云ふ者には土堀りとか、色々物を引揚げるとか、物を運ぶとか云ふやうな筋肉作業と云ふやうな方面をやらせると非常に喜ぶ、少し病氣の時でも筋肉作業をやらせると良くなつて來る、縦令

その運動によつて何等かの結果を持来しても持来さなくても宜い、唯筋肉作来其の喜びを云ふのですから働かして置けば宜いと云ふ譯であります、墮壕生活も消化型とか呼吸型のやうに、空氣或は飲食物に對して困るのでなく、寧ろ何にも用がないと云ふので苦む、さう云ふ譯でありますからまづい物を食はしても、悪い空氣でも平氣で、唯働くと云ふやうな型式である、斯う言つて居ります。其次はCの字で示す型でありますが神經質又は大脳型と言つて居ります、頭は上が擴つて下の方がこけて顎の所が小さいやうに見える、身體は他のタイプ程特徴はないけれども、頭が大きく腦が大で活動も大きい、智力を現すのも現はさないのも、能率を擧げるのも擧げないのも總て氣分に依る、其代り病氣も氣から起つて、癒るにも氣から癒ると云ふタイプの者であります、従つて前の三人のやうに空氣とか食物とか運動とかに對してはさう要求をしないけれども新規な物を愛し、むら氣である、或は新しい状態に旨く適應すると云ふやうな方面に於て長所を有つ、斯う云ふ者は一番智能が優れて居りますからし

て、兵隊生活に於ても主腦者に用ひるに都合が良い、さうしてそれに適したことをやらせると、一生懸命になつて、どんな危急な場合でも人類最高の力を現はすと云ふ型式の者であります、斯う云ふやうに長い間の戦争中の經驗で兵隊の分類をしたのであるが、之を目下は職業紹介に利用しようと企て、居ると云ふことであります。さう言はれますと、多少さう云ふ風なタイプの者があるやうに思はれます。勿論是だけのタイプで全部を盡したと云ふのではなく、中間物も幾らもありませう、さう云ふ風な人物判断の方法もございますが、それらは何れも表出法であります。

前に一寸手相のことを御話致しましたが、種々と字を書かせて判断しようとする企が近頃初まりました。尤も字を書かせて運命や性格を見ると云ふことは昔時からあることで、例へば墨色判断とか、一の字を書かして其人の性格や運命を判断するのがあります、茲で云ふのはさう云つたやうな字の判断でなくして、科學的方法に基いて種々の風文字を書かせて其人の性格を知ると云ふやうな企であります。それはカー

ネギーの研究所で働いて居るドーニーと云ふ人が種々行つたものでありますが、その方法には十種類あります。それは其全部を言ふのは時間を要しますから、二三をお話しますと、例へば字を出来るだけゆつくり書かせる、遅く書いた程良いと云ふやうな風にする、それはどう云ふことを意味するかと申しますと、吾々の筋肉運動を出来るだけ禁止する、所謂禁止の方面の努力がどの位その人間にあるかと云ふことを見る爲に、出来るだけ遅く書かせる、或は又出来るだけ早く書かせる。是は其男の手業と運動がどの位敏捷であるかと云ふやうな方面を見る爲に、出来るだけ早く書かせる、是も一つの方法であります。それから又他人の書いた文字を出来るだけ同じやうに模寫させる、模倣させる、吾々の筋肉が柔軟性を帯びて居る場合には模倣力が強いのであります。模倣を要するやうな作業は幾らもありませんから、さう云ふ方面の検査をするのであります。それから又出来るだけ違つた字を書かせる、何時も書慣れて居る自分の名前のやうなものでなく、自分の名前を出来るだけ違つた書き方で幾つも書かせ

る、是は變化性を検査するものであります、さう云ふやうに墨色判断と申しましても、墨色でなく筆の働き方で判断をするのであります。其方面から研究を進めて居る人がありますが、今日まだ十分に發達して居りませぬので結果が割合に少ないのであります、其中には何とか他の方法と結付いて發達するに違ひないと思つて居ります、是も矢張り一つの方法であります。

第二 品等法

それから第二の方法は品等法であります、是は人の能力才能に依つて等級を付けるのであります。是は大分昔からあつたことであります、十九世の後半に英吉利にゴルトンと云ふ人が居りまして、この人が人間に階段を附けると云ふことをやり出した。ゴルトンは其時代の英吉利人を十六段に分けて區別した、其十六階段の最上位に位する者は其時分百萬人に一人と云ふ位な穎才な者を持つて來て十六階段の最上位とし

た、ゴルトンの言葉に依りますと、希臘の古代には二十階段位の穎才が居つた、です。から英吉利の其當時は希臘時代より四階段だけ人物が下つて居ると云ふやうなことを言つて居ります、ゴルトンの人物評價は大に世人の興味を惹いてこれに倣つて種々の研究をした人があります。例へば米國のカテルの如きは人名辭書を調べて、それ等の人名辭書を通じて頁を多く占領して居るものは、それだけ世界に對して何等かの貢獻をして居るものであると云ふ見地からして、頁を最も多く占領して居る者から順次に人物を排列して見た。勿論それは近頃のやうに信用のない人名辭書になりますと、お錢を澤山出した人が頁を多く占領して、お錢を出さぬ人は僅かの頁で終つて居ると云ふのが大分ございますけれども、さう云ふものでなく、オーソリチーとなるものとして英吉利に二つ、獨逸に一つ、亞米利加に一つ、佛蘭西に二つと云ふ風に代表的のものを取つて居ります。尤も辭書によつて大小あるから、それ等は全體の紙數によつて按分比例で分けまして同じ標準に於て區別をしたのであります、即ち世界の偉人と云

ふものを人名辭書に現はれた結果に依つて判斷をして居ります、それも一つの品等法であります。其結果に依りますと、是は餘談であります、誰が一番世界的偉人であるかと云ふと、ナポレオンが一番多く頁を費した。其次がシエクスピヤー、成るほどさう言はれるとさう云ふやうに思はれます、それから其次はマホメット、ポルテール、ペーコン、アリストテレス、ゲーテ、シーザー、ルーテル、ブラトンと云ふやうな順序になつたのであります。

さう云ふやうな方法が段々發達致しましたが、今度合衆國が歐洲戦争に入りまして、一時多數の將校を養成しなければならぬと云ふ場合になつて、何とか適當な方法がなからうかと云ふ譯で、唯今のやうな一つの品等法を案出したのであります。それにはさう云ふな方法を用ひたかと申しますと、將校たる資格を分析しまして、將校となるにはさう云ふやうな能力が必要であるかと云ふ標準を先づ定めるのであります。今その將校たるの資格と云ふのは五つあります。一は身體的特質で、之には態度・清潔・

勢力・耐忍等をいふのであります。二は智能と名づけて、之は學習の容易なる事、正確なる事、上官の命令の要點を急速に捕捉する事、明敏なる命令を發する事、新状態を測知する事、危機に際し賢き決意を表はす事等をさすのであります。三は統率の才で、之は創案的で、性格の力を有し、自己に頼る心があり、果斷で氣轉がよく、人を感化する力があり、他人をして忠實に勞働せしむる才がある事等が含まれて居ます。四は個人的性質と名づけ、之は勤勉なる事、他人より信頼され得る事、忠實、自己の行爲に責任を課する事の容易なる事、詐偽又は利己心のなき事、共働する能力と準備とがある事を指して居ります。五は職務上の一般的價值といふ事で、之は職務上の知識・熟練と經驗、一方の指導者として成功せる事、結果を收める能力ある事等が包含されて居ります。さう云ふやうな五つの目標を設けて人の品等をする譯であります。品等の仕方は斯う云ふ事でやる、例へば此處に大尉の十人乃至二十人の集團が居る、其二十人の集團の中で大尉として、前記の五ヶ條の項目に旨く適合した人間は誰だら

うと云ふことを投票する。投票の結果甲なら甲と云ふ人が一番最高點を得た、さうすると甲なる者は大尉として模範人物であると云ふことが具體的に分る譯であります。あゝ云ふやうな人間であれば大尉として非難のない者であると云ふことが分る、かやうにして具體的の例が出て來ますから、後は判斷が出來易くなる、即ち今度は各々の大尉が自分の部下に居る中尉の三十人なり五十人なりの中から前の甲なる大尉と似た人間を探し出す、之は具體的の例がありますから、それに似た者を探し出すのは比較的樂であります。中尉の中から三人四人を探し出すと其中尉は將來大尉たる資格のある人間であると云ふことが分る、半年乃至一年の軍隊教育をやれば、其中尉は必ず將來大尉として成功する人間であると云ふことが分る、斯う云ふ譯であります、さう云ふやうなことをして一年乃至一年半で將校の不足を補つて非常に成績を挙げたと云つて居ります。是が最も進歩した一つの品等法でありますが、近頃英吉利のトムソンといふ人は教員の品等法を主唱して居る、教員としてはさう云ふ資格の者が必要である

か、それなごも矢張り五つの標準を列挙して居ますが、それに依つて優良の教師を選定して行かうと云ふのであります。

第四 検査法

其次は検査法で、所謂、メンタルテストであります、此メンタルテストに於ては検査の対象から分類すると個人検査と團體検査とになります。前着は一個人々々々々を検査するので、後者は團體的に多勢一遍に検査する方法であります、此個人検査並に團體検査に於きましても検査をする能力の方から分類しますと、一般的の能力の検査、或は特殊的能力の検査と云ふ風に分れるのであります。一般的能力とか或は特殊的能力と云ふやうな方面の區別に付きましては、是は中々議論のあることであります、茲ではそんな論戦は抜きにしまして、極大體のことを申しますと、一般的能力と云ふのは各種の精神活動に何時でも入つて来る、何時でも土臺になるべき一つの精神力と

云ふやうに考へて戴きたい。特殊能力は或特殊の作業にのみ働く能力と解して置きます。尤もこの一般的とか特殊のといふのは絶対的の區別でなく相對的のものとして考へて置いて戴きたい。

話の順序として一般的能力の検査と云ふ方面から申上げます、而してこの一般能力の検査はその対象の方からして前述のやうに個人的検査、と團體的検査と云ふ風になる譯であります。それに付て私の關係致して居ります東京市立中央職業紹介所の相談部でやつて居ることを御話致しますが、其前に外國の職業紹介所でどう云つたやうな検査をして居るかと云ふことを二三御話致しまして、それから東京市でやつて居ることを紹介しやうと思ふのであります。

米國のピッツバーグでやつて居るものは Test N 即ちゼット検査と謂つて居ります。是は極く簡単な方法で、第一の方法は同じ意味の言葉と、反對の意味の言葉が五十二ばかり順々に並んで居つて、同じものは同じと云ふ所へ線を引き、反對のものは

反と云ふ所へ線を引くのであります。例へば

はい	いへえ	回	反
泣く	叫ぶ	回	反
濕	乾	回	反

と云ふ風になつて居ります。

第二は反對語を聯想する言葉が並んで居る、例へば北と云ふ字があつて其次に極、南、風、西と四つの字が並んで居る、さうして北の反對の南と云ふ字の下に線を引くと云ふ方法であります。例へば、

北……………極、南、風、西、
 底……………頂、側、被ひ、開く、

次の検査法は、例へば

水 コーヒー バン 牛乳 酒

と云ふ風に五つの言葉が並んで居る、さうして此中に同じ種類に屬しないものが一つ入つて居るからそれを消せと云ふのである、さうすると皆流動體であるに拘らず、バンだけが流動體でないからバンを消すと云ふ方法。尙其次には

バナナ 木 燈 本輪 梨

と云ふ五つの言葉がある、是は皆果物であるが、獨り木だけが同じ種類に屬しないから、それに線を引く。さう云ふものが十あります。さう云ふ検査が一通り済むと、又前に在つたやうな反對語を聯想させる方法と異類語を消す方法とが、代る代る四十程出て居るのであります。

倫敦では各小學校に附いて居るスクール、ケヤー、コムミッター (School Care Committee) と云ふ委員会がありまして、それが職業紹介所と一緒になつて、卒業兒童に適當な職業を見付けてやると云ふことになつて居ります。其委員会の者が色々検査をしたり、又青年になりますと勞働局の方の人が學校へ行つて検査をする、殊に晝間補

習學校の方へ出張して検査をします。それ等の検査は倫敦に居るバートと云ふ人が牛耳を執つて居ります。此バートと云ふ人の検査法は、ビネーシモン法を採用した検査法でありますから茲に之を省略します。(詳細は拙著兒童研究所紀要第一卷、中文館發行を御覽下さい。)

次に米國のシャトル市の報告に依りますと、或る會社でやつて居る方法が一の模範になつて、シャトルの職業紹介所で其方法を採用して居ると云ふことであります。

其検査の方法は、第一に「次の言葉を用ひて、短くて正しき文章を作れ」と云ふのがありまして、其次に色々の言葉が並べてあります。例へば影響する、誘惑、それ、原書、想出、一時的と云ふやうな言葉が十程並んで居つて、さう云ふ言葉を用ひて、短い正しい文章を作れと云ふのであります。

第二の方法は諺が七つ並んで居る。鐵は熱いうちに打てと云ふやうな諺であります、其下にそれと似た言葉が矢張り七つある、是は上の諺を説明した言葉であります。

す、其やり方は上の諺の上の番號と同一番號を下の説明の頭の所に附けるのであります。即ち一番目の諺の説明が下のどこかにあると、その上に一番と記すのであります。第三の検査は綴字の誤つた文章が出て居る。其誤つた所を消して行くこと云ふ方法で、相當に長い文章であります、それを讀んで綴りの間違つて居る所を消させるのであります。

第四の検査は或る言葉の反對語を言はせる、其言葉が十五あります、最初の言葉の二三を申しますと、擴がること云ふ言葉がある、さうするとそれに對する反對の言葉縮まるを記入させる、或は結び附くに對して離れる、粗いといふ言葉に對して滑かといふやうな反對の言葉を書入れるのであります。

其次の検査は數字が五つづ、並んで十五通りある、例へば

3 9 7 8 4 1	9 6 1 8 7 2	5 7 4 3 8 9
5 3 2 4 1 6	2 4 8 6 9 1	

と云ふやうな数字が五つづゝ十五通り並んで居る、それに對して問題が三つある、(a)は6を含んで9を含まない數系列が幾つあるか、勘定をしると言つて、6を含んで9を含まない數系列を數へて線を引かせ且つ其數を最後の頁の所へ書かせる、(b)は9を含んで6を含まない數が幾つ、(c)は6と9と兩方含んだ數は幾つあるかと云ふ風にして検査をするのであります。

次に東京の職業紹介所の相談部でやつて居ることをお話致します。身體的方面、或は其検査をする前の聴取のカードと云ふこともありますが、それは煩雜であるし、又私は關係して居りませぬから省きまして、私の關係して居る心的方面だけを紹介しやうと思ひます。之には次に示すやうなカードがあります。而して最も先に主として見なければならぬことが六項目最初に擧げてあります、其一々の項目に就てお話しやうと思ひます。

最初の第一は一般智能検査であります、一般智能検査とは、今外國の例を紹介致し

ましたが、矢張り其やうに實際職業に従事する場合に於て最も基礎的の検査法で、非常に必要なものであります。特別の能力と云ふ方面の検査をしなければ、職業紹介の目的を達しないやうに言ふ人もありますが、勿論特別能力の検査も必要ではありますけれども、先づ第一に一般智能の高下を見てそれから特別能力の方に入つて行くのが至當であらうと思ふのであります。之に就きましては色々な例がありますが、此所には次の調査に就てお話しやうと思ひます。

(世)

給料	學校	智能
(受給者百人に就て)	(児童百人に就て)	(兵士百七十萬人に就て)
9% 150 — 200	19% 四學年にて退學 10歳	10% D—精神年齢 10
12 250 — 300	13 五學年にて退學 11歳	15 D // // 11
16 350 — 400	14 六學年にて退學 12歳	20 C — // // 12
31 450 — 600	27 七學年にて退學 13, 14歳	25 C // // 13, 14
68.....一週十五弗以下	67.....八學年を終へずして退學	70.....精神年齢十五歳以下

27	750	1000	23	六學年終了	16 1/2	C+	16, 17
3		1250	10	ハイスクールに入學	9	B	
2		1250以上	3	ハイスクール卒業	4 1/2	A	18, 19
				1.5 カレッジ			

此中給料は合衆國の勞働局で調査したもので、一年間の収入に依つて分けたものがあります、即ち一年間に百五十弗から二百弗を取る者が九パーセント、二百五十弗から三百弗の者が十二パーセント、三百五十弗から四百弗の者が十六パーセント、一週十五弗以下が六十八パーセント、七百五十弗から一千弗が二十七パーセント、一千二百五十弗取つて居る者が三パーセント、一千二百五十弗以上が二パーセントと云ふ風になつて居る。

それから學校の方は兒童が何歳位でどの位の割合の者が退學するかと云ふ調査であります、十九パーセントが四學年で退學する、其年齢が十歳、十三パーセントが五學

年で退學で十一歳、十四パーセントが六學年退學で年齢十二歳、さう云ふ割合で行つて八學年を終へないで退學する者が六十七パーセントで一番多い。

其次の智能は陸軍省で検査した陸軍検査で、百七十萬人と云ふ多數の兵士に就て検査したものでありますが、是は實に心理學上一の紀元を劃して居るのであります。百七十萬人に就て検査をしたといふことは前後にないことで、是は其結果であります。陸軍検査はA検査とB検査とあつて、検査は問題が二百十二あつて、それを五十分の間に全部出來た者が最高點を取るのです、其結果は次のやうになります。

(2)

A		B	
A	135	A	100
B	105	B	50
	212		118
	134		99

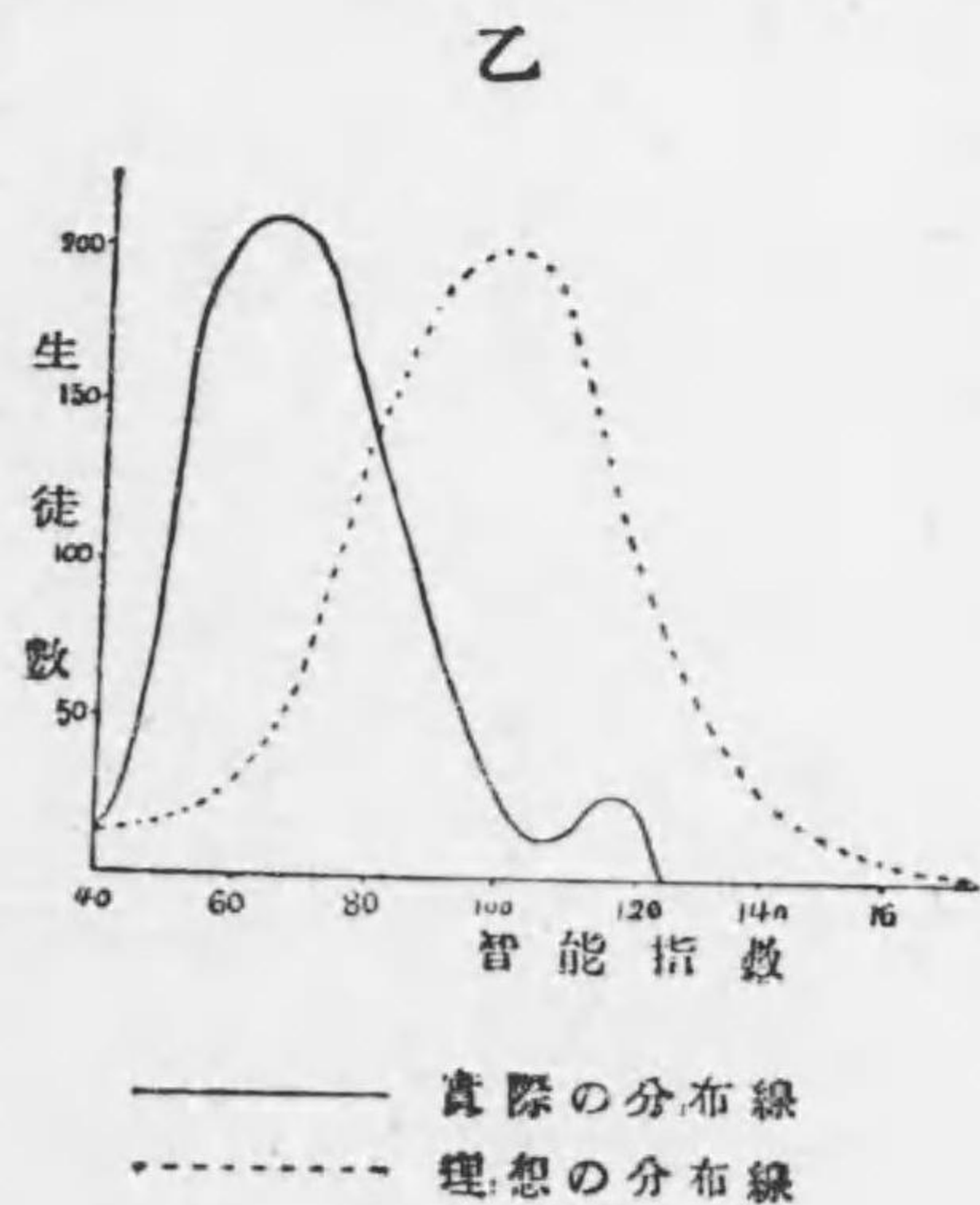
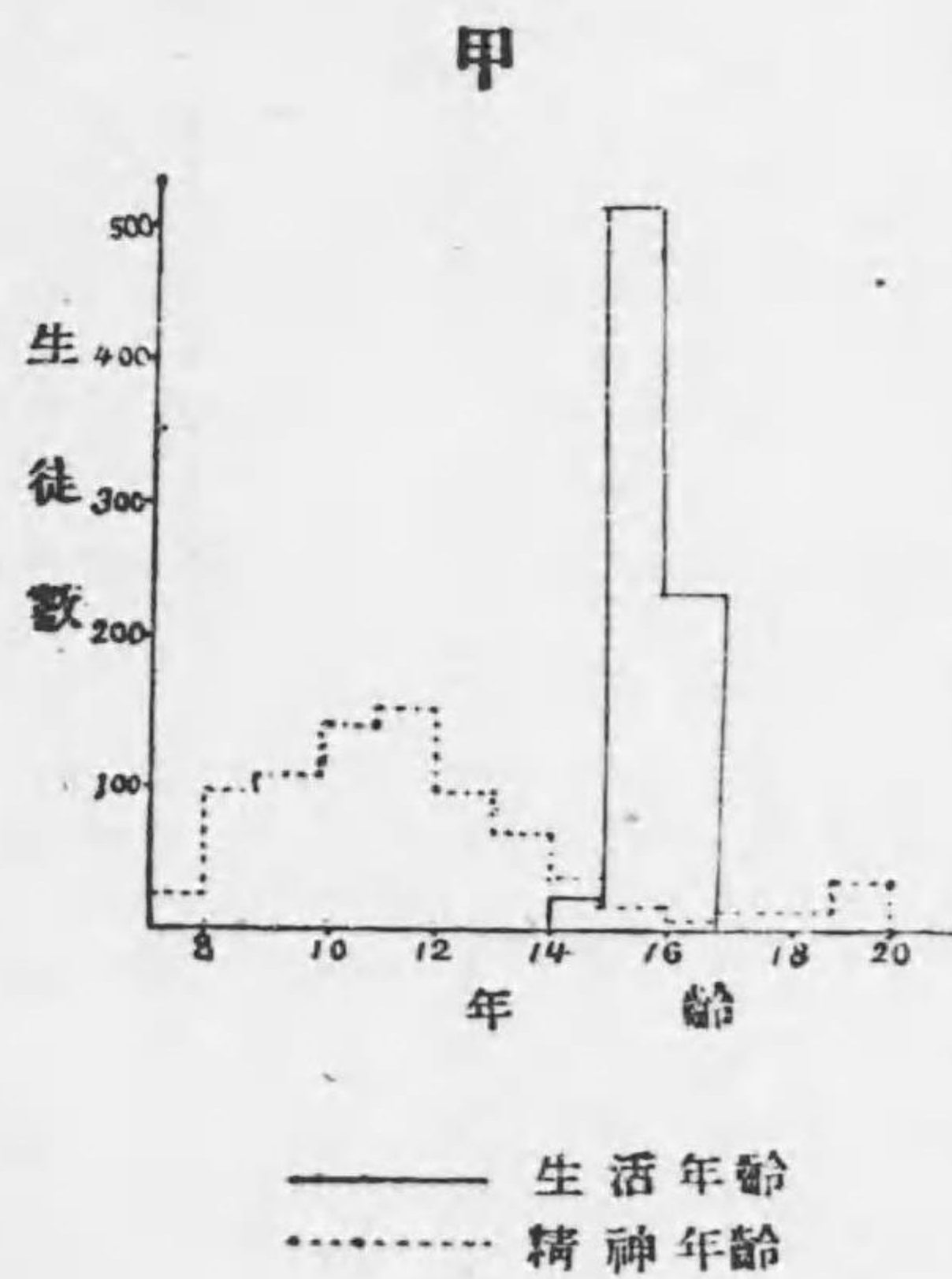
C+	75	104	C+	80	89
C	45	74	C	65	79
C-	25	44	C-	45	64
D	15	24	D	20	44
D-	14	0	D-	0	19

つまり問題が百三十五から二百十二出来た者は智能に於てA、百五から百三十四まで出来た者の智能はB、以下順次に階段を作つて居ります、それからB検査は問題が百十八ありまして、五十分間にそれが百から百十八まで出来た者がAの智能、九十から九十九まで出来た者の智能がBと云ふ風に分けてあるのであります、是は合衆國には移民がありますから、英語を解しない者の爲に此のB検査をしたのであります。

斯う云ふ風に分けた結果、智能の最高等のAは(甲)の表の智能の最高等十パーセ

ントで、之を精神年齢から見ると十歳、段々に十一歳、十二歳、十三歳と云ふ風になるのであります、是で見ますと(甲)の表の太線で劃してある所(太上の四段の總和を示してある)の百分比は給料の處も學校の所も智能の所も殆ど其の数が一致して居る。つまり俸給の少い者は智能に於ても學力に於ても劣つて居ると云ふことを示して居るのであります。一週十五弗以下の収入の者は六十八パーセント居つて、八學年を終へないで退學した者が六十七パーセント、精神年齢の十五歳以下の者が七十パーセントであるといふことを示して居る。勿論是は同一人ではないのでありますから直に結論に到達することは困難でありますけれども、大多數の人間に就ての調査でありますから、同じ人間でなくても略々見當が附いて居ると言へると思ひます。一週間の収入(俸給)の少い者が八學年を終へないで、精神検査の結果も十五歳以下で居ることを示して居るのであります。もう一つの例は紐育の補習學校でやつたことでもあります、是は新入生の團體検査をやつたもので、個人検査の時に言ふべきことではないが

序だから言ひますが、オーティスと云ふ人の検査法を用ひた結果であります。



甲表の見方は縦軸の百、二百、三百、四百と云ふのは人数を現し、横軸の八、十、十二、十四、十六、十八と云ふのは年齢を現して居る、實線の方は生活年齢、即ち子供の戸籍面に現れて居る年齢で、點線は精神年齢であります。此オーティスの精神検査では、生活年齢から見ると一番年齢の多いものが十五歳乃至十六歳の者であります。

す。智能検査をやるに精神年齢の一番多いのは十歳乃至十一歳である、さうすると智能に於ては、身體の發育の方面から考へるよりも五歳だけ遅れて居る譯であります。

(乙)表は生活年齢と精神年齢との比即ち、智能指數で現はしたもので、縦軸は生徒數、横軸は指數で實線が實際の結果であります、之によると最多數の生徒の屬する指數は六十點近くであります。所が智能指數の理想と致しましては點線で示すやうに最多數の者が百の所へ來なければならぬ。而して百から兩方へ下るやうにならなければならぬ、所が此補習學校のものはさうなつて居らず、低い方に高い山が來て居る。かやうな低い智能の者が補習學校を出ないで職業に就くとこの位の弊害があるか云ふことが分る譯であります。

以上は一般智能の検査がどれ位必要かと云ふ例として示したものであります、もう一つ一般智能の検査が必要なものであると云ふ例を申上げて見ます。それはピッツバーグの職業紹介所の例であります、ピッツバーグの職業紹介所では一般智能検査

を致しまして、其満點を取つた者は九十點、一番出来ないのは零點として零點から九十點迄を五段階に分けて居ります。或る日其所へ十七歳の赭チャケた毛の、身長の低い男がやつて来た、早速検査をしたら七十二點取つた、七十二點は最上の部であります。この標準では六十三點から九十點までが最上の部になつて居るのでありますから、七十二點と云ふのは非常に好い成績であります。そこで紹介所長が或るデパートメントストアに紹介した、所が一週間ばかり経つたら、あんなひどい奴を紹介されるでは困る、何も出来ないで困るからと言つて歸された。けれども紹介所では、實は斯う云ふ譯で一般智能検査では優秀であつたのだから、どうかもう一週間使つて見て貰ひたいと言つて又使つて貰ふことにした。すると一週間経つたら驚くほど好く出来て来た。最初はうまくアダプテーションが出来なかつたのでありますけれども、天稟の質が良いからだん／＼光を發して来たのであります、さうして四週間後には同時に採用された者の中では最高位の能力を示した。それで其デパートメントストアでも喜

んで、どうかあゝ云ふ者をもう二人ばかり寄越して呉れと要求したと云ふことであります。

それならば東京職業紹介所ではどう云ふ一般智能検査をするかと云ふと、程度の低い方は、昨年来私が拵へました増訂智能の檢定法で行つて居ます。之は檢定用具と云ふものも出来て居ります。この増訂智能檢定法は個人検査法でありまして、精神年齢の二歳から十四歳までの検査が出来ることになつて居ります。満二歳位は、大きな大小を見させるとか、色の辨別などをやらせる、段々大きくなると何か描かせる、複雑になると重さの判断をさせるやうなこともあります。尙複雑になりますと幾何學的圖形の分割を命じたりする。やはり之も詳細なことは時間の都合上御話出来ませんから拙著兒童研究所紀要第五卷を見て戴くことに致します。

次に程度の高い方は國民智能檢定法と申す團體検査用紙を使用して居ります。之は先に述べた陸軍検査の結果が合衆國に於て非常に好結果を納めたので、平常に於ても

之を教育に利用しやう、一般國民の智能検査と云ふものにしやうと云ふので、國民智能検査法が出来上つた譯であります、それは合衆國の尋常三年から八學年までの検査をするやうに出来て居ります。それは尋常三年生で零點を十パーセント取らぬ、八學年で十パーセントだけ滿點を取らぬやうに出来た検査法であります。其検査法が出来上るまでには色々議論がありました。精神検査は練習をすれば上達する、若し之を練習したならばどうであらうか、其練習を防ぐ爲には、出来るだけ方法を變へて、應接に違がないやうにしたらどうだらうと云ふ議論がありました、然しさう方法の變つたものはあるものではない、二十や三十位は考へられるけれども、それ以上は吾々の考では一寸考へ及ぶものではないのであります。さう度々方法の變つたものを出すことは出来ぬ、それよりは方法が一致して、其代り内容の豊富なものを使はう内容を何時でも取換へることの出来るやうな方法にしやうと云ふので、A式に五つB式に五つ、全體で十の形式を作り上げた。検査の方法はA式が五つ、B式も五つと定つて居り

ますけれども、内容は段々に殖えて行つて、AもBもフォームが一から五までになつて居ります。今はまだ二までしか出て居りませぬが、一を練習し盡すと二を出す、順々に三、四と出す、幾らでも必要に應じて出すやうになつて十位まで出来ること云ふことであります。若し十出来た場合になりますと、總數三千七百三十と云ふ問題の數になる、それを皆練習し盡したとすれば、優に小學八年の卒業免狀を何時でも遣つて宜いと云ふ風になつて居る、随つて若し練習をしたければ練習をしても差支ないと云ふ譯であります。

其検査法を昨年来日本に輸入しまして、色々改良を加へたのがA式並にB式の第二であります。A式並にB式の第一は殆ど原法に近いものであります。然し近いと申しましても、形式はスツカリ同じでありますけれども内容は異つて居ります。

先づA式の五種の検査法を述べますと、第一は算術的推理法といふので、應用問題が十八ある。一番の問題は、「一郎は十三歳で花子は九歳になる、花子は一郎といくつ

歳がちがふか」といふやうなもので、十八番は「昨日正午に正しく合した時計が今日の午後六時に十五秒進んで居たとすれば、この時計は半時間毎に幾秒づゝ進むか」といふ問題になつて居ります。第二のテストは文章完成法と名づくるもので、問題が二十八ある。一は「お母さんはごはんを……てゐます」となつて居て、その空處に短くて適當の語を記入させるのであります。これには種々ありまして、その二三の例を述べますと、

二十五錢は一圓の……一です。

動物は呼吸作用によつて空氣中の……を吸ひ……を吐出す。

貧乏神でも賢くて……の強固な者を……ことはできない。

……の氣象……人は多く事業に……する。

第三のテストは論理的選擇であります。即ち次のやうに印刷してあります。

人 [からだ 杖 頭 くつ 齒]

犬 [毛布 くさり くびわ 足 鼻]
家 [門 へんき 柱 女中 かべ]

これは各問題の括弧の中から左の物になくてならぬもの二つだけを選んで其の下に線を引くので、前掲の例によると、「人」になくてならないものは「からだ」と「齒」だから、その二つに線を引く。犬の處では「足」と「鼻」とに線を引くといふやうにする。この種の問題が三十あります。

第四は同異法であります。これは原法は同反法となつて居て、同じ意味の語と反対語とを並べてありましたが、私のは次のやうに同意味の語と異つた意味の語とを並べて同じ場合には兩語の間にイクオールを書き異つた意味の場合には×の符號をつけます。二三の例を挙げると

上……×……下

新しい……×……古い

のこる……………＝……………あまる
 晴……………雨
 日出……………誕生
 無比……………唯一

かやうなものが六十對ほど列擧されてあります。
 第五は置換法で符號を數字に置換へる検査であります。例を示すと次のやうになつて居ります。

第一圖の中には一々の符號シムシにそれぞれ數字があてはめてある。それを見て其の下の1より2までの圖の上にある符號を數字に直して下にお書きなさい。ぬかさないやうにして、できるだけ早くなさい。

第一圖

1	△
2	□
3	⊙
4	+
5	≡
6	⊗
7	⊕
8	⊞
9	◇

1	⊙
2	△
3	+
4	⊗
5	□
6	⊕
7	≡
8	◇
9	⊞
0	⊗
1	⊕
2	⊞
3	⊙
4	△
5	+
6	⊗
7	⊕
8	⊞
9	◇

1	⊕
2	△
3	⊞
4	≡
5	⊕
6	□
7	◇
8	⊗
9	⊕
0	⊙
1	◇
2	⊙
3	⊗
4	⊕
5	△
6	□
7	≡
8	⊞
9	⊕

次にB式の検査法にも五種あります。

第一は計算問題で次のやうな問題が二十二あります。

$$\begin{array}{r} 1 \\ + 5 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 2) 8 \\ \hline 16 \\ - 7 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} \text{時 分} \\ 1 \quad 35 \\ + \quad 47 \\ + \quad 2 \quad 10 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 6084 \\ \times 7 \\ \hline \end{array}$$

第二は知識の検査で次のやうになつて居ります。

一週間は [5. 6. 7. 12] 日である

神武天皇祭は [冬、秋、春、夏] にあります

オベリクスは [布、石碑、人、川] の名である

等が五十ありまして、括弧の中の四語の中どれを使用すればその文章が完成するかを見、その語の下に線を引くのである。前例の「一週間」云々は「7」の下に、「神武天皇祭」云々は「春」の下に線を引くといふやうにするのであります。

第三は語索法といはれるもので、

熊には爪がありますか………はい いんえ

氣象臺は天氣を豫報する所ですか………はい いんえ

輕石は水成岩に屬しますか………はい いんえ

といふやうな形式になつて居り、問題が五十あります。而して前述の熊の場合は「は

い」の所に線を引き、「氣象臺」云々の場合も「はい」に線を引き、「輕石」云々の場合は「いんえ」の下に線を引くといふやうにします。

第四は類推法でありまして、

たびー—足 帽子—(手 鼻 耳 頭)

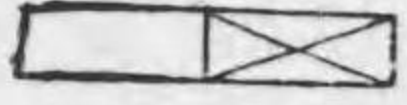

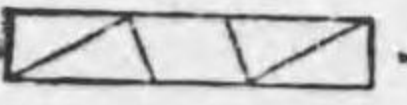
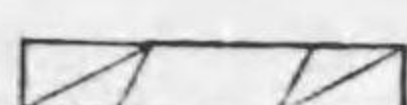
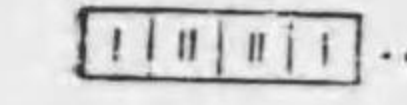

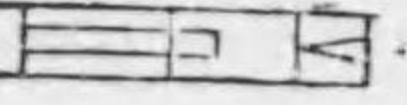
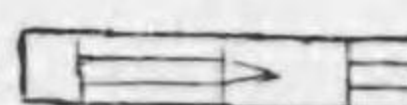
空—青 草—(山 夏 緑 雨)

鳥—歌ふ 犬—(尾 はえる 歩く 犬小屋)

鳥—飛ぶ 犬—(尾 はえる 歩く 犬小屋)

といふ風になつて居ります。即ち「たび」は足に用ゆるように「帽子」はごこに用ゆるかを考へ、括弧の中の「頭」の字の下に線を引くといふやうにするのであります。第五は比較法と申しまして次のやうに兩方に語や形が列べてあるのを比較して同一であればイクオール、異つて居れば×の字を附すのであります。

A式もB式も各テストの前に一つ宛練習がありまして各テストの仕方を十分に兒童

273.....	273
3861.....	3861
大山正夫.....	犬山正夫
	
2579.....	2397
38657.....	38657
926745.....	926745
大本忠一.....	大木忠二
サラタニホム.....	サラタニホム
	
	
	
468225.....	468235
920379.....	923079
5218861.....	5218861
3238734.....	3328734
21059876.....	2105986
さいさとにくるを.....	しえいとにくるを
むやとくにきれ.....	むやとくにきれ
ハヘタシヨマメカ.....	ヨハヘタシヨマノカ

に飲み込ます様にしてあります。これ等の検査方法の詳細なことは單時間の講習に申

し盡されませんから、尙一層深く研究したい御方は拙著兒童研究所紀要第六卷中の國民智能検査法の項の處を御覽下さることを希望します。

かやうな検査をして各年齢や各學年に就て標準點が出来て居りますから、子供が來れば此子供は尋常四年の能力がある、五年位の能力がある、或は中學三年生位の智識を持つて居ると云ふことが見える譯であります。一般能力の検査の方は其位にして特殊能力の方に移ります。

特殊能力の検査としては、先づ注意力の検査をすることになつて居りますが、是も兎角批評を蒙る譯であります。吾々の精神活動は皆注意が主になつて居る、記憶をするにしても注意が基であります、又何か創作的のことにするにも、注意が必要であります。注意は智識の現在に於ける統一をするものであるから、何れの場合にも必要であります。それであるのに何故注意力といふ風に一つ取り離しての検査をするのかとか、又そんな検査が出来るかとの御叱りを受ける譯であります。然し實際にやる場

合に於きましては、注意の集注とか注意の分散と云ふことが、職業に於て一般的に必要でありますから、特に注意力と云ふ項目を置いた譯であります。しかし検査の方法としては一定の作業に表はるゝ注意力を見るのであります。即ち注意の集注の検査としては抹字法を用ひて居ります。活字のベタ組になつて居るものゝ中から、或る指定した文字を消させる、例へばアとイとロの三字を消させると云ふ方法で、それを出來るだけ早く消させる。それに依つて速度と誤謬とを見るので注意が集注して居なければ、過誤も多く速度も遅い譯であります。注意の分散の方は、是も本當に言へば集注も分散も同じであります。注意力が強ければ、それが一の目的物に向つたり、或は違つた方に區別して注意することが出來ますから理窟から言へば同じであります。假りに一つの點に向くのを集注として、三方乃至四方に分れて集注されて居るのを分散と名前を付けて居ります。其分散の検査をする場合は、主に事務員の如き者に於てやつて居ります。昨年東京市で市吏員を採用した場合にも分散の方の検査を致しまし

た。それは事務家としては色々注意を分けてやる必要がある。一方に計算をしながら一方には表を見る、其うちに課長から命令が來る、給仕にも命令をしなければならぬ、電話も掛かつて來ると云ふことになるから、注意が分れて働かなければならぬ。一つの事務に集注することも必要であるけれども他方には方々に氣を配らなければならぬから、さう云ふ検査をする、是はなか／＼正確には行きませぬけれども、計算をさせる間に或る一定の話をする、或は文書を読んで聞かせて、後で其話の内容や文書の大要を返線させることになつて居る。計算を一生懸命やつて居つて、計算の方の能率を下げないで、一方耳で聞いたことをどの位覚えて居るかを見るのであります。中には耳で聞く爲に計算能力の下る者があります。それを見るには一般智能検査で、此男はどの位の計算能力があるかと云ふことが分つて居るから、只今のやうな障害を與へると、その影響が分明して來ます。

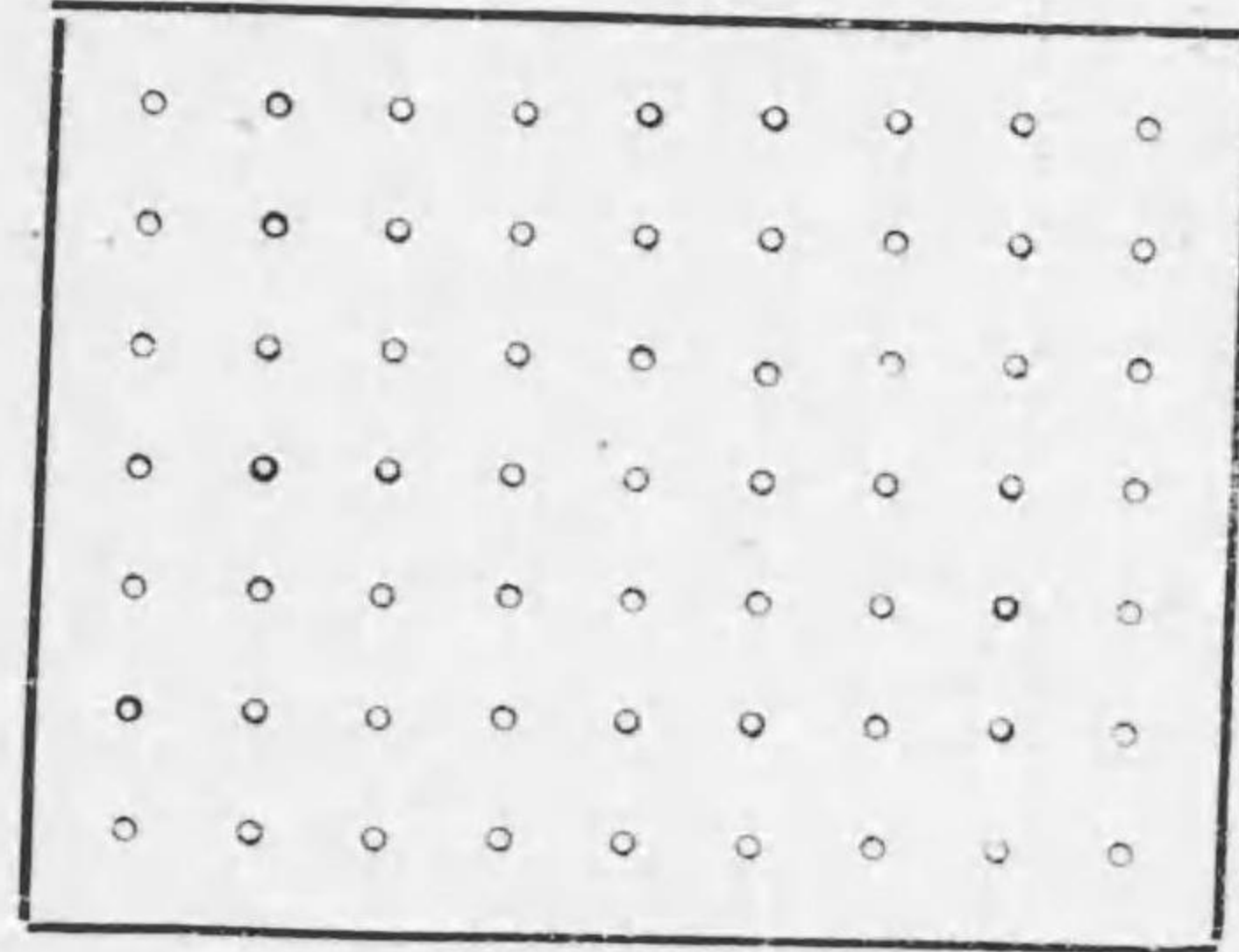
次は學習能力の検査であります。注意は如何に集注致しましても、一生懸命に一事

に夢中になりましたも、學習能力がなければ困る、中には熱心にやりさへすればノロマでも宜いと云ふ仕事もありますけれども、矢張り注意が能く集注され、又新しいことを習得する力が働くことが必要であります。學習にも大別しますと二通りありまして、筋肉の學習、精神的の學習と云ふ風に分れます、筋肉學習に就ては鏡寫法と謂つて、五角形なら五角形の物を鏡の前に立て、鏡に寫して、眞の五角形を見ないで鏡に寫つた五角形を見ながら書く、さうすると鏡面像は實際の場合と反對になつて居るから、従來の習慣を打破つて新しい學習をしなければならぬと云ふことになる譯であります。其速度及び正確さに依つて學習能力を判断しやうと云ふのであります。精神的學習の方は是は語學の習得と云ふ方面の検査法にしても宜いと思つて居ります。それは一般智能検査に用ゐた選擇法を轉用して居ります。例へば三角は一、四角は二、矩形は三と云ふ風になつて居る、それを早く覚えて記入させるのであります、吾々が新しい智識を得る場合は皆斯う云ふことをやります、語學に於ては殊にさうであります。

す。ドッグは犬、キャットは猫と教へる、別にドッグを猫、キャットを犬と言はなくても差支ない譯でありますけれども、然し其所に約束がある、三角は一四角は二と云ふ風に教へる、日本語もさうで例へば、幼兒に向つてあれは犬、あれは猫と教へるのであります。新しい智識を習得して新しい觀念を造り上げるには是が一番好い検査であります。

其次は運動能力の検査であります、注意の集注が強くと新しいことを習得することが早いと言つても、或る仕事は筋肉の運動が敏捷でなければならぬ、落付いてやる仕事もありますけれども、ごちらかと言へば敏捷が必要でありますから、運動能力の方面を見ることになつて居ります。運動能力でありますから、握力や身體全體の作業も見なければならぬのですが、今はさう云ふ道具が相談部の方にありませぬので、タツピングを用ひたり、電話の度数器を利用して居ります、それを出来るだけ早くやらせる、斯う云ふものを用ひて、一分間乃至二分間連続してやらせる、又疲勞の度を見る

爲には長い間やらせませんが、それで運動能力の速度を見るのであります、又次のやうな木製の板に穴のあいたものを用ゐて、その穴に小棒を早く挿入するのであります。



棒は木では不便であること云ふので金の棒になつて居ります。之を早く差させるのですが、この穴は一行二十づゝになつて居りますが是は一分間に大抵一行半位で、二行全

部はやらませぬ、而して各分毎に新行から初めさせるやうにすると一分、二分、三分四分、五分と各分に於ける作業率が分りますから、それに依つて疲労度を見ます、其數に依つて疲労曲線と云ふものを出すこともあります、或は唯五分間なら五分間連続して作業をやらせることもあります、さうして五分間やらせたものならば、それを五で割ると一分間に於ける速度が分ります。淺草の專賣局では此方法ばかりやつて居るさうです、局員の話に依りますと、色々智能検査をやつたけれども、どうもうまく行かない、此方法が一番好い、大抵實際の作業も是と一致すると云ふことであります。彼所は主として手の先の運動で、而も敏捷にやると云ふことが主になつて居りますので、此方法とは一番關係が深いやうであります。此盤に開ける穴は私の方のは前述の通り一行二十づゝ二十行あるやうになつて居りますけれども、それは幾つでも宜い譯であります、マッチ棒でも宜いけれども、日本のマッチ棒は折れ易いから金の棒にして居ります、是が小學の六年生位で三分間やらせると最高百、最低四十、平均七十位

であります。専賣局では三分間に七十、一分間に二十三位の所が普通で一分間十八以上は採用すると言つて居ります。専賣局の方は女ばかりの故か、ごうもレコードが多くないのでありますが、極く簡単な仕事を要求する職工であればそれでも結構だらうと思ひます。

其次は反應度であります。是は紹介所の方には器械がありませんのでまだやつて居りませぬ、然し何れやる目的で居ります。是は主に視的反應と聽的反應、眼で見たりものに對する反應と耳で聽いたものに對する反應と二つの方面から見やうと云ふ譯であります。反應實驗は或る種の作業に於きましては特に必要であります。何の作業にしてもエヘンと言へば煙草盆を持つて來る位の氣轉が必要であります。殊に日常生活には常に反應を行つて居る職業があります。例へば運轉手や車掌は毎日反應實驗をやつて居るといふべきであります、赤い旗を見ると直ぐにブレーキを掛けるか青い旗を見たら出發すると云ふやうなことであります。此反應に於ても筋肉反應、感覺反應、

自然反應と云ふ風に分けて居ります。筋肉反應はブレーキならブレーキの方に一生懸命手の方に力を入れる、即ち反應する手の方面に注意を集中して居ることでありませぬ、感覺反應は見る方の刺戟に對する反應で、何時も赤い旗が出るかと云ふやうな方面に注意して居ること、自然反應は兩方に等分に注意すること、例を擧げて見ますと、尤も是は實驗室でやつた例でありますから、實際の運轉手の検査などの場合に應用が出来るかどうか問題でありますが、實驗室の結果は次のやうになつて居ります。實驗室では燈火がバツと出るやうなキイがありますから、其キイで燈火を出す被験者はそれを見ると直に見たこの電鍵を押す。さうして燈火を見せた時から手で押す迄の時間をヒツプ氏のクロノスコープで計る、又或る音を立て、それからキイを押す迄の間を計つて見ますと、音に對しては百二十シグマ、光に對しては百八十三シグマである、一シグマは一秒の千分の一であります。又感覺反應の方を見るも音に對しては二百三十シグマ、光に對しては二百七十シグマ、自然反應は音に就ては百四十より百

九十シグマ、光に於ては百九十より二百二十シグマと云ふ割合になつて居ります。之に依ると筋肉反應よりは感覺反應の方が時間が長くかゝると云ふことが言へるのであります。つまり筋肉の方に一生懸命注意した方が早く反應する、眼で見るとか耳で聽く方に注意するよりも、手の方に一生懸命注意する方が宜い、斯う云ふ結論から言ふと、自動車の運轉手でも何でも、手の方に用意をして居ると云ふことが宜いことになります。

然しながら是等は要するに、單一な極く簡單な反應であります。尙之に對して複雑なる反應もあります、例へば青旗を見ると車掌は二つベルを鳴らし赤旗を見ると一つベルを鳴らすとか、又車掌が二つベルを鳴らすと運轉手は車を動かさし、一つ鳴らせば車を停めると云ふやうな場合は複雑な反應であります、さう云ふ場合の反應の實驗も出来るのでありますから、反應度の検査は職業指導の上に必要であります。

次は疲労度であります、只今申上げたやうに、早く新しいことを習得し、運動も敏

活、反應も早いと言つても早く疲れては困る、故に相當に疲労に對する抵抗力の程度を見なければならぬ譯になります。それには別に新しい検査をしないで前に述べた抹字法、或は置換法の結果から判断することにして居ます。さうしないと一人の検査に餘り時間が永くかゝるからであります。此等の検査に於ては一分間とか二分間とかに區切りをしながら連續作業をさせ各分の間の作業を検査する。かやうにして最初の一分の作業成績と最後の一分の成績とを比較して、どれだけ誤が殖えたか又は速度が鈍つたかを見る、棒差の作業でも同様にして各分毎にだんく疲労して行く度に分ります、勿論長時間の疲労の度を見ることは紹介所の相談部のやうな所では困難でありますから、先づ一時的の疲労を見るのであります。

以上述べて來ました六種のテストは何をやるにも必要であると考え、之を一番先にやります。其後は目的に依つて色々なことをやるのであります。例へば音樂の方面に向ひたい者は聽覺に對する特別の検査をする、味に關する商賣を望む者は味覺

の検査をすることになります。進んだ細かい方面の検査には無論色々の機械を要するので、目下獨乙に注文をして居りますが、本年末には來ることになつて居りますから、それが参りましたならば細かい方面の検査、所謂質の方面の検査を進めるつもりであります。

かやうに質的方面のテストは餘り手をつけて居りませんから、外國に行はれて居る二三の事實をお話しやうと思ひます。この方面のテストは特殊能力のテストに屬すべきものでトレード、テスト (Trade Tests) と稱へて居るものもあります。それには一つだけ検査をすれば十分に職業に就けて宜いものもあります、例へば前にお話した專賣局の検査のやうなものはそれでありませぬ。之に反して電話交換手の如きは、あの作業を分析すれば、一つの通話をするには十一の作業に分れる、少し複雑になると十四位に分れる、さう云ふ複雑な能力を要する作業はそれに應じた色々の検査をしなければならぬことになります。現に遞信省の電話局などでやつたものを見ますと、聴覺の

鋭敏の度を検査する道具がありましたり、指の先の運動をテストするものもあり、或は視覺の鋭鈍と、疲労のそれ等識閥に及ぼす影響を計る器械もあるやうであります。先づ交換手としては、耳が鋭敏に働かなければならぬと云ふことは基礎的な問題で、言ふまでもないことでありますが更に棒を差す指の働きが速いと云ふことも必要であります。かやうに實際生活に於ける仕事には種々ありますから、複雑な作業を一人でやる場合と、分業になつて極く簡単なことを一つ宛やる場合とは、區別して検査をしなければならぬことは申すまでもありませぬ。

尙一例として複雑な精神作業に従事するものに課するテストをを申述べますと亞米利加のアイオア大學教授シーショアと云ふ人は音樂家に對するテストを工夫して居ります。それは音の高さの辨別や強さの辨別や調子の區別をテストし、又音樂的の記憶、即ち音譜を記憶するとか、他人の音樂を聴いてそれをどの位記憶して居るかと云ふやうなことをも検査し、ハーモニーやメロデーと云ふ方面の區別をテストして居り

ます。尙又手の運動の速さや正確の度と云ふやうな事、或は音の心像に關する検査をするのであります。又畫家に對しては、ノースウエスタン大學のジョンストン氏が企て、居ります。氏は先づ初めに畫家に手紙を出して「あなたが畫家として成功するには、これまでどう云ふことが一番必要であつたか」と云ふこと、「現在から考へて見て如何なる能力が畫家には必要と思ふか」と云ふことを質ねた。さうして其回答を集めた。それが研究の動機になつて色々の研究が出来るやうになつたのであります。私も其例に倣つたと云ふ譯でもありませんが、昨年九月相談部が出来ました時に、各會社に手紙を出しまして、少年を採用する時はどう云ふ標準の下に採用するか、現在昇進した使用人はどう云ふ能力がある爲に昇進したかとかいふやうな五六項の質問を出しました所が、面倒なものが來たと云ふ譯ではありません。庶務課位の所で返答したものと見えて、本會社は體格強健の者を採用する、と云ふやうな事が書いてある。こんなことは初から訊かなくても分つて居る、或は又性質溫良な者を採用す

ると云ふやうな返答もあつたが、是もわざと訊かないでも分つて居る、吾々の要求する所はもう少し分析的の方面でありましたけれども、それは失敗した譯であります。只今申しましたジョンストンと云ふ人は質問をした結果畫家としてはどう云ふことが必要かと云ふことから、それに對する三つの検査法を出して居ります。第一は諷刺畫を一つ幻燈で五分間見せ、寫生畫を一つ五分間それから其二つを五分間幻燈で見せて、其後でどう云ふ畫であつたか、それを描かせるのであります。第二の検査は矢張り視的記憶の検査で、それは日常有觸れた事物の繪を一つ宛描いたものが十枚ある、それを幻燈で一枚五秒宛見せる、さうして何を見たかと云ふことを訊く。第三の検査は、幻燈の種板に二つの繪を並べて見せる、一つは少しく遠景視の誤つたものが書いてある、一つは完全なもの、それを並べて見せて、どちらが正しいか、どちらが間違つて居るかを判断させるのであります。それ等の方法に依つて畫を描く能力を検査する、殊に小學校卒業期の子供に就て調べて居ります、卒業期の子供に畫を描かせ

まして點を附けて、只今のやうな實驗の結果を調べると、五分間宛見せた視的記憶の検査即ち、幻燈十枚に日常事物の畫を描いたものを再生するのと、子供の繪の能力との關係が一番深いやうで、相關係數が八十三になつて居ります、之を見ると畫家となるには、何か見たものを記憶すると云ふことが大に必要なことが分かる。更に遠景視のテスト繪の能力との相關係數も六十九でかなり高い關係になつて居ります。それで畫家となるにはどうしても視的記憶の検査や遠景視のテストをしなければならぬと云ふことになります。勿論手の運動、或は陰影に對する濃淡の度合の認識、色の辨別と云ふやうなこともやらなければならぬが、其中一番大事なものは前述の視的記憶であると云ふことが分ると言つて居ります。

又リンクと云ふ人は砲彈を造る工場に働いて居る二種の女工に就て詳細な検査をして居ります、一つは検査工で出來た砲彈を検査するもの、二十三十と纏つて來るものを、一々疵があるかないかを調べて、悪ければハネて次にやると云ふ検査工、もう一

つは測定工、私は實際見たことはないのですが、書物で見ますと、穴があつてごん／＼送つて來る砲彈を其穴に入れて見る、砲彈がそれと同じ大きさならば入るが、小さければ抜ける、大き過ぎれば入らぬ、それを一々穴に當てて大きさを測定する測定工、それ等の女工に就て五つばかりの検査をやつて居ります。第一の検査はカード分配法であります、或るカードがありまして、それを分けて行くのであるが、カード分配には幾通りもあります。例へば一とか二とか三とか印刷したカードを數十枚持たせて置いて、更にその目前に一の箱二の箱三の箱といふ風に入れる箱を置き、「初め」の合圖と共に一の字のカードは一の箱に、二のカードは二の箱に入れると云ふ風に配つて行くのであります。是は郵便集配人などにも必要です。第二は打叩であります。第三はベタ組の活字の中から或る字を消させる抹字法、第四は一般的智能に關係した方面の検査で、それは大きい圓と小さい圓を並べて置いて、其中の小さい圓を消せと云つたやうな方法であります。一つの第五の検査は前に説明した、シヤトルで使つて居

る六位の数を並べて置いて、其中の一と七を含んだ数、或は一と七を含まない数に線を引くと云ふ方法であります、五つの検査をやつた結果が出て居りますが、それは斯う云ふ相関係数が出て居ります。

	検査工	測定工
カード分配	0.55	0.5
打 叩 法	0.14	0.52
抹 字 法	0.63	0.17
圓 の 比 較	0.14	0.18
数を消すもの	0.72	0.19

マイナスになりますと、まるで関係がないと云ふ現象を呈して居る譯であります。

之を見ますと測定する者に對しては打叩法即ちタツピングが一番關係が深くて五二となつて居りますが、他は殆ど問題にならぬ位であります。所が検査工になりますと、タツピングも必要であるが、一番終の消す数を見別けるのと、カード分配が關係が深いと云ふことが分ります。此結果から見ますと、作業其ものがさう云ふ風になつて居るのであります。只今申上げましたやうに、検査工は明敏でなければならぬ、それはアラを探して分配しなければならぬからカード分配や抹字法が關係が深い、所が測定工はごんぐへ挿してさへ居れば宜いと云ふのでありますから、手の運動の速度が發達して居なければならぬ。それで打叩法との關係が最も深いといふことになつて居るのであります。

其他タイピスト、店員、秘書役等の検査をした例がありますが、大抵大同小異であります、それで只今お話しした検査のやうに、仕事を分析して、それに依つて色々の検査法の案を立て、實際にその方面に従事して居る者を検査して見た結果、此検査は

文部省囑托 川本宇之介述

第三篇 道德より見たる職業指導の必要

第一 緒言

今回この職業指導の講習會を開くに當りまして水野講師と二人で「職業指導の意義及外國に於ける狀況」をお話をして見ると、斯ういふ話でありまして茲に演壇に立つた譯であります。他にあまり此の點は内外共に説く者研究する者が少い。依つて道德の方面から見て、職業指導の必要なる所以を少し細かくお話をして見たいと思ふ次第であります。

先づその初めに申して見たいことは、この職業指導と云ふものが漸く最近我國に於

きましても注目を引くやうになつて参りましたが、數年前私がまだ東京市教育課に居りました時分に、この職業指導が段々と擴がつて來たと云ふことを或二二三の校長などに話を致しまして、之を多少試みて見たらどうだらう、中學校等へ入る子供に一生懸命準備教育をやつてやるのも必要であります。現在既に東京に十校からの特殊小學校があり、生徒が約一萬人ある。この學校は貧困兒の爲めに特別の教育をする。その中仕事の傍ら夜小學校の課程を受けるものは、三千からあるのであります。その上に小學校へさへも入り得ないで、東京では尋常夜學校と稱して居りますが、其處へ入つて晝は仕事をして夜は普通教育を修めて居る者が、私の居りました時分には、七八人居りました。その中約六割と云ふものは學齡兒童である。即四五千人が學齡兒童であると云ふことになつて居るのであります。之は東京だけでなく、大阪とか神戸、斯様な大都市には何處でも夜學部と云ふものが設けてあるのは御存知の通りであります。さうしますと少なくとも東京だけでも既に學齡兒童であつて、さう

して同時に一方に職業をやつて居る者が少なくとも六七千人は居ると見なければならぬのであります。斯様な者に對して捨て、置いてはならぬ、現在既に入つて居る者も、所謂親が斯うしろとか、友達から誘はれたと云ふので、貧困の兒童であつて、各種の仕事をして居るにも拘らず、學校ではその指導に殆んど手を着けて居ない。

それで吾々が色々話をしますと、少なくとも當時は多くの小學校では職業指導などは以ての外だ、小學校は子供に普通教育を授ける所であると云ふやうな考から、殆んど話を聽かなかつた有名なる校長が居るのであります。併しその校長は見識の狭いとか廣いとかでなく、日本の教育全體が、斯様にあつたことを證明して居るのであらうと思ひます。それから後に不思議な事があつたのであります。それは三四年前に東京市の小學校教育に内容改善調査委員會と云ふものを設けたことがあります。私達も東京市視の一人としてその幹事のやうな仕事をやつたり色々な事をやつて居りましたが、その時に私が一ツ改善要項に職業指導の一案を加へて貰ひたいと云ふことを言

ひました所が、先きに私に反対した或校長が賛成した。と云ふのは何故かといふと、亞米利加へその校長が行つたのであります。即ら向ふへ行つて初めてその必要なことを感じた。それから後果して決行されたかどうかと云ふ事は自分も承つて居りませぬが、兎に角斯様に思想が變つて來たのは喜ぶべきことであります。

一昨年、文部省で就學兒童保護施設講習會を開催した際、大阪市少年職業相談所に關係して居られた三田谷啓君に御願して極く時間は少なくありましたが、職業指導の講習をやつて貰ふと云ふやうなことが段々刺激となりまして發達して來たことは、非常に私共の、今昔と云つてもさう昔といふことは言へないかも知れませぬが、今昔の感に堪えないやうな次第であります。その感を持つて茲に諸君に極く僅かでありますがお話を申し上げることを非常に自分自身としても興味深く感ずる次第であります。

第二 職業の概念と近世産業の發展

(一) 職業の概念

そこで第一にお話申上げたい「職業の概念」であるとか、或は「近世産業の發展」と云ふやうなことに就ては、既に各講師からそれ／＼お話があつたやうでありますから、これは殆んど詳しく申上げる必要はないのでありますけれども、併しこの順序と致しまして、極くザツとお話しなければ趣旨が徹底せぬと思ひますから、極く簡単に申上げて見たいと思ひます。

この普通吾々が職業と申して居るものを分析して見ますと、所謂昔からいふ所の生業、喰ふ爲めの仕事と云ふのと、それからもう一ツ喰ふ爲め以外に於て社會的にする仕事、この兩方ある、即ちこれを分析して生業と職業と、斯ういふ風に分けて考へる必要があると思ひます。即ち生業といへば個人的の意義でありまして、自己の生活の資料を得て行く、即ち生活の安全を期すると云ふことが根本のものである。英語に於きましても獨逸語に於きましても、チャンとこの二ツの言葉は別れて居ります。例、

ば英語では Calling と稱せば、大體いへば日本の所謂生業に近いのだらうと思ひます。語學者でありませぬから間違があるか分りませぬが、先づ大體さう言つてよくはないかと斯ういふ考を持つて居ります。それから獨逸語に於きましても矢張り Erwerb といふ語が之に當ります。社會的意義を考へますと、凡そ社會と云ふものゝ成立はその構成して居る各員のそれ々の仕事を有することに依つて、初めて社會が成立つ、續いて社會の發展を期するのでありますから、どうしても一ツの職業と云ふものは社會的の重大なる意義を持つて居ると思ふのであります。その方は日本ではやはり先づ職業と云ふより外に仕方がないと思ふのでありますけれども、これは英語でいへばオキユペーション(Occupation)といふのはこの方に當りはしないかと思ふのであります。それから獨逸語の Beruf(Beruf)と云ふのが之に當ると思ひます。

斯様な區別を考へて見ますと、吾々が普通平素職業々々と言つて居るのを分けて考へると云ふことは、道德的に或ヒントを與へるのであります。この生業の個人的並に

社會的兩方面から見て、私共が茲に道德的意義と云ふものを認めなければならぬのであります。個人的に見ても吾々の生活資料を得る、自己一身の衣食の資料を得ると云ふことは、人格の確立のために最も重要なのであります。人格の確立が第一ですが、それが職業に依つて得られると云ふ事は、これは私共が非常に意義を認めなければならぬのであります。中世の倫理學では抽象的な若くは現在と離れた宗教本意の道德倫理が主であつて、吉田(靜致)先生があつた所謂同圓異中心主義の形而學的の倫理學説を立て、居られますが、最近に於ては深く職業道德の研究の必要と實行の必要とを感ぜられると云ふことを仄かに承つて居りますが、段々と吾々が職業に關して道德を十分に説かなければ、眞の自己の人格の意義其ものも六ヶ敷なる。況んや社會的意義に於ける道德から見た所の吾々の職業道德、即ち吾々はこの職業そのものに依つて社會奉仕が出来る。社會奉仕とは有り餘つたならば慈善的に寄附するも宜しからう、けれども第一に自己の職業に依つて何か社會に貢獻する、この點を吾々は常に子供を指導し

なければならぬと思ふのであります。

(二) 近世産業の發展

私は數年前より職業教育の徹底と職業指導とが十分に行かなければならぬと云ふことの意見を段々發表し、人にも批評を求めて居るやうな次第であります。この意義から出發しまして、この近世の産業の發展の結果どう云ふ風になつたかと云ふことを見て見ますといふと、茲に申すまでもなくこれは(一)大工業の勃興(二)産業組織の發展はもう詳しく申すまでもない事であります。

その次に(三)工業が發達すれば發達する程、分業が發達すると云ふことは之又茲に申すまでもない事であります。その一二の例を申しますと、ピンを一ツ鐵塊から拵へる、鐵の塊りがある、それを小さいピンを拵へるまで分業が行はれることが先づ七十七回、乃至工場に依つて九十何回と分れて一本のピンが出来ること云ふことでもあります。それから又もう一ツ例を申して見ますと、日本では吾々の穿く靴を多く一人でやつて

居りますが、海外でやつて居る所では百三十も分業の手を潛つて來る。懷中時計になりますと複雑なだけに千百八十八種、それ文の手を潛つて初めて出来る。これは餘程進んだことに違ひないのであります。斯様に分業が發達して參りますと、茲に職業と云ふものが益々複雑になり、多端になつて參ることは茲に言ふまでもない、又斯様に職業の種類が多くなり複雑になつて參りますのは、これはもう一ツ學術應用の爲めに、此處に文字が抜けて居りますが非常に職業そのものが精緻となり學術的になつて參ると云ふことであります。

これは工業の方ではもう申すまでもない事ではありますが、農業に於ても能く現はれて居る事でありまして、教育上餘程重大な事であります。有名な獨逸のバルトの教育史の中にも詳しく書いてありますが、その中「大工業の發達」といふ所に斯う云ふことを書いてあります。これはその時と今とは値段が違ひますが、大體一ツで分るかと思ひますから申しますと、工業が發達した結果、六拾五錢の石炭で、壹圓貳拾

錢の賃金を要する職工が二十人も寄つてやる仕事が出来た。この一事を申して見ましても大工業の發達と云ふことが吾々の職業生活及社會に偉大なる影響を及ぼして居るか。さうしてその節約されたものは如何になるかと云ふと、益々深い／＼細かい／＼仕事に入つて行く、バルトの教育史に書いてある所を見ても、昔は「石を變じてパンとする」と云ふことをキリストが言つたことがありますが、それを近世の人々は笑つて居つた、所が豈計らんや礦物肥料と云ふものが出来た結果、茲に石を變じてパンとすることが出来るやうになつた。礦物肥料が出来た結果、今までは何も出来なかつたやうな海濱の土地が、その礦物肥料を使ふやうになつて非常に豊饒な土地になつた。是れ即ち石を變じてパンとするのではないか、茲に教育上目を着けなければならぬと云ふ事を教育史に書いてありますが、是れ即ち農業のやうなものに於ても益々學術研究の爲めに農業そのもの、職業そのものが精緻になつて来るやうであります。

それから斯くの如く職業の種類が澤山になり、分業が増加し、さうして精緻になれ

ばなる程、茲に(四)轉職、即ち一つの職業をやつて居つたならば、誰も彼れも昔のやうにやる譯には参りませぬから、一つの職業に入るといふと轉職をすることが甚だ困難になつて來ると云ふことは茲に吾々は又教育上注目をしなければならぬ事が起つて参ります。それからもう一ツ工業が發達し商業が發達するに従つて(五)都市の勃興と云ふことが起つて参りまして、我も我もと集中して來て、ドン／＼工場に人間を吸取られて來る、これ又吾々の非常に考へなければならぬ事となつて參るのであります。それから今度は(六)生活の困難、段々生活が困難になつて参ります爲に、遂に幼少年、子供が續々と仕事をやるやうになつて來る、曩に申しましたやうに少なくともモツと調べれば澤山あるかも知れませぬが、十四歳までの子供が東京市だけで七八千人職業に従事して居る有様である。(七)その職業には衛生上、非常に注意を要する職業も多々あります。又道徳上墮落し易い職業も澤山あります。例へば男ならば新聞賣子、列車内のボーイと云ふやうなのは、金を儲けたらどうしてもそれを贅澤に使ひ易

い、そこにもう非常なる道德上の危険が潜在して居るのであります。これはホンの一例に過ぎないが、斯様に考へて見ますと、吾々少なくとも教育上職業と云ふことに就きましては注意を要する點が各方面に存在することを認めざるを得ないのであります。この職業教育に就きましては春山教授よりも色々お話があつたらうと思ひますが、一言之を述べ且つその参考書につき申し上げたいと思ひます。

第三 職業教育

(一) 職業教育の参考書

その前に一言希望を申して置きたいのは、職業指導はどうしてもその根本になる所の職業教育の思想を十分に御考究になつて、それから御配慮を願ひたいと思ふ點であります。そして職業教育に關するものを二三御紹介申上げて置きたいと思ひます。職業教育につき先づ以て早くこれに就て喚起して呉れた人は、これは有名なコロンピヤ大學のジョン、デュイー先生であつて、此人の著書で亞米利加でも何十版と版を重ね

た有名なのがあります。それは "The School and Society" といふのであります。それには産業革命の結果どういふ風に産業が発達した、これに對し教育は如何に順應したか、それは今どうすれば宜いか、と云ふやうなことを非常に面白く書いてあります。これは基礎的書物と申して宜いのであります。それから獨逸語になりますけれども、獨逸も亦職業教育を非常に高調し、さうして注意なども深く行届いて居りますが、これは皆さんの御存じの通りであると思ひますが、かのケルシエンシュタイナー、先程綿貫君のお話に依るとミュンヘン大學の教授になつて居るさうです、けれども最も活動されたのは、言ふ迄もなくミュンヘンの學務課長として非常に活動されたのであります。その著書に "Grundfrage der Schulorganisation" (學校組織の根本問題) といふ書物がある。これは各雑誌に書いたもの等を輯められたものであります。非常に職業教育に就て有力な議論が澤山ありまして、就中「職業陶冶か一般陶冶か」といふのと、同市「補習學校の改造」(戦前では世界第一の賞讃を博して居りました)を

論じたものでありまして、それは譯者は忘れましたが、英譯もありませんが是非讀みた
いものだと思ひます。

次に比較的通俗的であるがテイラー氏著で極く手ツ取り早く見るものと申します
と、「Handbook of vocational Education」といふのがあります。之は全職業教育につき
概略書き、補習學校や職業指導のことも書いてあります。それからまだモツと深く研
究するにはデュイー先生の近著「Democracy and Education」といふのがあります。帆
足理一郎氏の譯もあつて、なか／＼よいことがあつて、職業教育の本義が極めて的確
に闡明されてあります。それからもう一ツ歴史的に教育を非常に面白く書いたのを御
紹介申して見たいのは、最近亞米利加人で Joseph Kinnount Hart といふ人が居ります
が、この人は「Democracy in Education」即ち「教育に於けるデモクラシー」と云ふ
のでありますが、これは産業革命の結果、如何に教育に影響を與へたか、今後の方針
はごうしなければならぬと云ふことを餘程面白く書いてあります。さうして教育上徹

底的意見が分るかと思ふのであります。日本に於ける參考書としては、大阪市少年職
業相談所の稻葉幹君の著された書物、拙著「職業教育の研究」(發行所目黒書店)文
部省編著『就學兒童保護施設の研究』(中文館發行)などであります。

(二) 米國オハイオ州立大學の調査

この調査のお話をする前に先づ第一に申上げて見たいと思ひますことは、日本では
まだ只職業指導が必要だと云ひますと、直ちに何か手取り早くやり掛るご云ふ事も結
構であります。その根本の職業指導が必要だと云ふことを感ずる爲めには、近時の
少青年がごういふ風に職業上に於ける生活をして居るかご云ふことの詳しい調査が、
まだ日本には無いやうに感ぜられるのであります。之をやりませんと云ふご、眞の職
業指導の本旨に入ることには難かしいかと思ひます。所で日本には何もありませんまい、
假りにありまして不幸にしてまだ十分私の手に入つて居りませぬし、且外國に於け
る調査を例としてあげ、次に日本の少年監獄に入つた青少年の之に關する各方面の調

査を分析し且つ綜合して研究したいと思ひます。

最初の調査は米國のオハイオ州立の大學で調べたものであります。こゝの教授やら或は學生等も皆入つておやりになつたのであらうと思ひますが、その町の商店とか、會社とか、銀行とか、各工場、さういふ所で働いて居る所の二十三四歳までの者に細かいことを聞いた。併ながら書いて貰つてはいけないと云ふので、大分直接來て貰ひまして、色々話を聴き、さうして直ぐ書き入れて行つたやうであります。その要項を大體お話を申して見ますと、言ふまでもなく名前だとか、年齢だとか、或は學校を退いた時、その時の年齢、學年、卒業したのもありませうし中途退學もありませうし、兩方入れてある、最近何處の學校に居つたとか、それから學校を退めた理由、卒業したならば卒業した年、それから學校を退めてから後、或は卒業した後、職業に就くまでどれだけの間遊んで居つたか、何處で暮したか、職業を見付けるまでに經過した時間でありませう、それから學校を退いた後どんなに多く職業を變へて行つたかと云

ふことを聞いた、それからその中に細かく分けまして、どうしてそれでは職業を發見したか、それからどんなに長く一つの職業をやつて居つたか、何遍變へたか、最初賃銀は幾らであつたか、それから最後の賃銀は幾らであつたか又その次の職業に移る時はどれだけの機會があつたか、何故職業を變へたか、その理由、今後ズツトやりたいと思ふことはないか、斯う云ふやうなことを聞かせたのであります、これはブルームフィールド著「Readers in Vocational Guidance」といふ本に詳しく書いてあります。此の本は多くの人々の講演や論文等を集めたものであります。多くの研究調査の結果大切な事だけについてお話しして見やうと思ふ次第であります。

(一) 年齢(就學年數)

先づその初めに年齢から進んで參ります。

年 齡 と 人 數		學 校 教 育 と 人 數	
	人 數	小 學 校 學 年	人 數
12	1	1	3
13	2	3	2
14	17	4	22
15	58	5	37
16	101	6	121
17	139	7	136
18	126	8	276
19	131	High school	
20	93	1	100
21	89	2	69
22	61	3	38
24	1	4	22
16—19	60%		826

この調べた年齢は、西洋の事でありますから勿論満であります。十二歳から二十四歳までになつて居ります。斯ういふ風になつて一番多いのは十六歳から十九歳までのものでありまして、丁度それは六十パーセントになつて居ります。それからその次に一体何年まで學校へ行つたかと云ふことの調に依りますと、小學校は一年しか行かないと云ふ者が三人、二年が〇、三年が二人、斯ういふ風になつて居りまして、ハイスクール、丁度小學校を八年卒へて入る所で、日本でいへば中學校と高等學校の間位の學校ですが、そのハイスクールが一二三四年までありますが、斯ういふ風になりまして八百二十六人だけハッキリ分つて居る、やはり修業の一番多いのは六年七年八年、ハイスクールの一年、斯ういふやうな程度が一番多い、若しくは同じハイスクールでも卒業する者は少ない、退學する者は多いと云ふことが分る。これを調べても自ら職業指導の必要と云ふことが分つて來る。義務教育は八年であります、途中退學する者が随分あると云ふことは分る。日本でも就學率は九十九パーセントと申して居ります

が、色々な方面で申しますと九十パーセントにもなつて居ないといふ確信を私は持つて居りますが、斯ういふ點を日本も徹底的に調べて來るとモツと面白い點が日本は得られやしないかと思ふ。諸君の任地に於ける學校に於てお調べ下さつたならば——學校だけではいけないけれども——大いに研究せらるゝ問題に多々打ツ突かることゝ思ひます。

(二) 學校を終了後就職までの年月と就職の方法

その次には學校を卒へて仕事なしに暮した時間でありませう。それに依りますと割合に早く職業に就き易いものと見えまして、七十五パーセントは直ちに職業に就いたと云ふのであります。二十五パーセントと云ふものが多少の間遊んで居つたと云ふことになる譯であります。そこでどう云ふ風に然らば遊んで居つたかと申しますと、割合に早く就きまして、

人員	月數
115	一月
25	1-2
11	2-3
10	3-4
48	4-5
	5-6
14	6-12(1年)
6	1年-1½

即ち一月遊んだ者が百十五人、一月から二月の間が二十五人、二月から三月が十一人、斯ういふ割合に遊んで居つた。さうしますと一月の間が百十五人でありませうから遊んで居つた者は極めて少ないと云ふことを示します。これは矢張り亞米利加であればこそ恐らく日本であれば斯様に早く職業に就くことはなからうと大体考へる次第であります。これに依つて見てもやはり茲に一ツの職業指導の必要と云ふことを感じさせるのは、斯ういふ風に遊んで居る者があるといふ所に、色々道徳上考へましても注意を要することがあります。即ちよくない方面へ誘惑されないであらうかと云ふ

學校を終へたる後 職業變更數 (調査ノ時迄ニ於ケル)		一職業從事期間	
人		17人	1月以内
228	1	37	1月—2月
214	2	105	2—3
94	3	138	3—4
58	5	133	4—5
31	6	102	5—6
19	7	147	6—7
11	8	90	7—8
13	9	69	8—9
2	10	85	9—10
		69	10—11
		25	11—12
		222	1年—1.5
		110	1.5—2
		68	2—2.5
		25	2.5—3
		27	3—3.5
		3	3.5—4
		30	4年以上
平均二年 =	3		
平均一業務 =			
一年以下			

のであると云ふことを書いてあります。そこに一ツ私共の職業指導の必要と云ふことの意義を先づ分けければ二ツ程ある譯であります。

(三) 轉職に關する調査

ことを思ふと直ちに感ずる次第であります。

それからもう一ツその次に面白いのは、然らばどう云ふ風にしてその職業に就いたかといふ調に今度は移る譯であります。その場合に依りますといふと如何に就職したかといふ下に廣告九十二人となつて居ります。その前に一ツなければならぬのであります。別に詳しい理由はなしに職業に就いた者がそれが八十五パーセントあると云ふのであります。それから多少とも注意をして職業に就いたと云ふ者が此處に擧げられてある。即ち廣告を見たのが九十二人、これも多少考へたやうであります。兩親の助け即ち兩親に相談をして、さうして色々聞いた者が五十七人、朋友の助けに依つて入つた者が五十五人、それから學校の先生からの紹介で入つた者が一人、雇主に直接話をしてさうして入つた者が一人、これで見ますと、實に漫然職業に就いた者が甚だ多いと云ふことが直ちに分るのであります。この書物に書いてあります通り漫然入つて行く、斯う云ふものに對して職業の指導をなす事が最も有効であり、茲に必要を感ずる

その次に今度は転職であります、學校を終へてから職業に就いてさうして今調査する時まで、詰りそこに長いのもあり短かいのもありますけれども、転職の回数は何遍したかと云ふことを調べた。それに依りますと職業、即ち転職は一回やつたと云ふ者が二百二十八人、二回と云ふのが二百十四人、斯う云ふやうな數でズツと参りました、やはり一番多いのは一二三回といふ所になつて居ります。併ながら六回七回八回九回、十二回、實に澤山な回数に相成つて居るものであります。平均して二年に三回の転職になつて居ると云ふことであります。これと同時にもう一ツ見ることは、一ツの職業に就いて居つた期間、一月とか二月とか色々ありますが、その期間を調べたものに依りますと、一ツの職業を一月位やつては變りくする、或は職業に入つて間もない人が、調査するまでに一月にならないといふ人があるかも知れませぬが一ツの職業に従事した人で一月以内の者が十七人、一月から二月が三十七人、斯ういふ風になつて参りました一番多いのは三ヶ月から四ヶ月百三十八人、四ヶ月より五ヶ月百三十

三人、五ヶ月乃至六ヶ月、六ヶ月乃至七ヶ月、この邊が割合に多くて、更に今度は一年から一年半、一年半から二年、この邊も割合に多くなつて居ります、四年以上と云ふのは僅かに三十人しかない譯であります。さうして之を平均致して見ますと、一ツの業務に従事して居ることが一年以下と云ふことになつて居るさうであります。これで見ると如何に職業を轉々し歩いて居ることが甚だしいかと云ふことを、吾々は直ちに合點參る譯であります。

今茲に一人ごういふ風に職業を變へて行つたかと云ふ中に面白い例がありますから、一ツお話をして見ますと、今お話する人は、小學校を八年まで入つて卒業して、さうして十五歳の時に職に就いて、それから調べる時には確か二十歳であつたかと思ひますが、その間に滿十五歳から滿二十歳まで、五年、五年の間にごういふ風に職を變へたか一ツの例であります。一番初めに入つた所は煉瓦を拵へる所へ入つた。さうして一週に六弗貰つた、金を呉れるものです。一年の終りには丁度九弗貰へるやうに

なつた所が一年経つてからどうもこの仕事は餘り困難だ、俺には難儀だ、苦しい、斯ういふので今度は變へた。一週間経つて後早速働く場所を見付けて來て、莫大小工場に入つた。この時は最初は四弗貰つた、一年の終りには九弗貰つて居る所を捨て、しまつて、今度一週四弗呉れる所に入つた。そこで二年居つた。これは割合長く居つたことが分りますが、さうして一番最後に十二弗貰つた、大分上つて、三倍になつて居る。所が二年たつて餘り同じことをやつてどうも疲れたと云ふので、今度はその仕事を捨て、しまつて、又茲に突拍子もない所へ變つて行つた、それはフェアヤグラウンドと申しまして、日本で云へば展覽會のやうなものがありました、展覽會が主であるか、餘興や色々の遊びが主であるか知れないやうな、さう云ふやうなのが盛んに各所に行はれる。一種の日本の鎮守祭のやうなものに類する。見世物が各地に轉々するやうなもので、さう云ふやうな所へ入つて、これは日本の祭のやうに一日二日ではない、さう云ふ様なものは一時的臨時的のものでありますから賃銀は割合に澤山呉れ

る、初めは一週十弗呉れる、四ヶ月居つて仕事が終つてしまつた、その仕事が終つて罷められたのかどうか知らぬが、今度は他の方面で錫を商ふ處へ丁稚となつた其處に五ヶ月居つた。そこでは初めから終まで一週七弗貰つた、所がどうも丁稚は嫌やだと云ふので、何か手仕事を働きたい、工業の方で働きたいと云ふので、今度は煉瓦積の助手になつた、そこで一週六弗貰つた、一年の終りに十四弗貰つた、これは餘程この仕事に或は適して居つたのではないかと思ふのであります。所が此處で落着いて居れば宜いと思ひますが、特別の理由もなくしてどうもモツと變つた所へ行きたい、變化を好む爲めに又去つて、元とのフェアヤグラウンドの方へ行つてしまつた。そこで賄付で七弗貰つた、暫くやつて居つて、又元の煉瓦積の職工になつて一週十二弗を貰つた。丁度この調をした時がその職工をやつて居つて、將來この煉瓦職工をやるのだと、斯う言つて居つたと云ふのであります。こゝで私共のこの職業指導上暗示を與へられることは、この青年を假にAといふ名前を付けて置きますが、このAなるものが

丁度五年の間に七回も轉々職業を變へて居る、さうして色々な事をやつて居りますが、結局この成績から見ますと、少なくとも賃銀の上つて行く割合率を見ますと、第五番目に入つた煉瓦積職工が最も適して居つたのではないか、一遍やつて元のことが面白くて入つて、さうして初めから十二弗を貰つて、將來も之をやるのだと斯ういふ風になりますと、或はこの人の精神状態なり、身體的方面なり、色々な方面から最もこの人にこれが適して居るのではないかと云ふことを暗示されるのであります、こゝに私共が非常に職業指導上注意を要する箇所を發見するのであります。

(四) 轉職の理由

斯くの如く轉職の一例を擧げた譯であります、またその外に色々な書物に出て居りまして、向ふでも中々轉職の回数が多いのでありまして、多いのになりますと斯う云ふ風になつて居りますが、結局轉々し歩くこと云ふ者が非常に多くある、是から彼れ、彼れからはれと變る、さうしてそこに注意を要することは、斯くの如く轉々し歩

いて居つては、一ツの仕事に經驗を得ると云ふことが少ないと云ふことである、でこの經驗と賃銀とどういふやうな關係になつて居るであらうかと云ふことを茲に見なければならぬと思ふのであります。

もう一ツその前に申して見たいことは、職業の事で轉々し歩く所の理由であります。職業を變へる最も主な理由は、これはこの書物に書いてありますが、はつきり決める譯には行かないが、矢張り一番多いのはモツと澤山金が欲しい、モツと賃銀の多い所に行きたいといふのであります。もう一ツはよい仕事を見付けて將來になつて金を多く得たいと云ふ、このよい仕事を見付けたいと云ふのが割合に多いさうであります。

その他はつきり分るのが仕事を失つた、主人から解雇されたか或は主人の家が失敗したか、さう云ふやうなもので、これは不本意ながら職を失つたと云ふのが二十パーセント、それから餘り困難だ、辛い、嫌だと云つて飛出したのが十五パーセン

ト、それからその仕事に失敗したのが七パーセント、何か失敗りをやつて居れなくなつたと云ふのが七パーセント、これが先づ割合にはつきり分る方でありませう、一番多いのは先刻申した金儲が餘計欲しいと云ふのである。漫然と變へる者の中に色々ありますが、それを申しますと云ふとどうも此仕事に俺は疲れた、この仕事は面倒だ、どうも俺は虫が好かない、モツと變つた所へ行きたい、斯う云ふやうな漠然たる考を以て變へるものも中々少なくない。それから少し多い方ではどうもこの仕事を俺がやつて居つては進歩する機會が少ないと云ふやうな考から出掛けて行く者もある、この仕事はどうも將來見込がないと云つて變へる者もある、斯う云ふやうな方はそのツレードを變へるのが宜い方であるが、これは極めて少ないと、斯う云ふことであります。

茲に又私共が職業指導上注意を要すること、又その必要と云ふことを知られるのであります、斯くの如くたゞ職業が困難だ、或は疲れたとか、面倒だとか、嫌だとか虫が好かないとか、斯う云ふやうな時に際して、今度はそれを傍に居つて、朝から晩

まで就く譯には無論行きませぬけれども、色々そこそこに慰めてやる、或は又轉職の不利なことを説いてやる、眞に又それがその青年の身體には適せない性質に合はない、智能に不相應であると云ふのであつたならば、どうかしてこの身體によく合ふ適合するものを見付けてやる、又たゞ進歩の機會が無いとか、望みが無いとか言つて居る者には、そんなら望のあるものは是が宜からう、彼れが宜からうと云つて忠告してやるのも結構である、即ちこれは職業指導は單に職業に就く時に心配してやるのみならず、入つてから後も保護指導してやると云ふ必要を茲に示して居る。轉々し歩く、その轉々し歩くにも色々な理由がある、その理由に應じてそれ／＼適當なる考をこちらで話をし、或は道徳上説くのも結構だらうし、或は實際上適當なものを見付けてやるのも結構であります。即ち一度就職した後に於ける指導も必要になつて來ると云ふことを、茲にこの事實が明瞭にして居らうと思ふのであります。

(五) 學校教育と賃金の關係

それからその次は先刻申しました所の賃銀の事であります。

小學校五學年以上終了者の最初の賃金		
學年	人數	一週賃金
小學校		
5	37	4.25 弗
6	118	4.50
7	131	5.20
8	275	5.68
中學校		
high		
1	98	6.00
2	73	6.60
8	33	7.60
4	18	7.50

小學校を五學年以上やつた者、その賃銀を書いてあります。その前にもありましたが少し除きましたが、それに依りますと能く分る數だけが斯うなつて居りますが、結局やはり學年が上がるに従つて賃銀は大體に於て多い、五學年を終へて退いて行つた者が三十七人で、一週に四弗二十五仙、六年が四弗五十仙、それから七年五弗二十仙、八年五弗六十八仙、ハイスクールが一年六弗、二年六弗六十仙、三年七弗六十仙

四年七弗五十仙、〇、一弗下つて居りますが、これは數も少ない爲めではなからうか、モツと數が多かつたならば適當に比例が上がつて居ることが分ると思ふのであります。斯う云ふやうな状態ではやはり學年が進むに従つて最初の賃銀が上つて居るのであります。之にも書いてありますが、學年と云ふよりは、寧ろ年齢に従つて上つたと言つた方が宜いかも知れぬ。自然年齢が上がる譯でありますから、中にはハイスクールなどを卒業した者は、將來見込がありますから初めは少なく、さうして高尚な職業に就く爲に、初めは役に立たないから給料が少ない、併ながらその割合に下げる譯に行かない。唯、年齢に従つて行くと云ふやうな程度に於てより自由であると云ふことを書いてあるのであります。

(六) 職業の種類

それでは今度は一體職業の種類は幾つかと申して見ますと、皆で一千人の中の職業が百十一種あつたさうであります。併ながら最も主なるものを擧げて見ると三十三種で

あつて、七十パーセントが三十三種類、この三十三種が千人の職工の七十パーセントを占めて居ると云ひますから、やはり割合は或一部に傾いて居ると云ふことを見られるのであります。この職業の種類は中々先きに申します通り、分業が盛んになればなる程多くなる、現に東京の直營小學校と稱して居る一所の兒童職業を調べて居るが、何でも六七十あつたことを記憶して居ります。然らばどう云ふ職業に多く従事して居るかと思ふと、やはり所謂熟練職工と云ふやうな方面が少なくして、不熟練職工、或は半ば不熟練職工、半ば熟練職工、さう云ふ方が多い。即ち單なる見習と云ふやうな者、それから一般労働、たゞ一般労働でありますから腕づくで行く仕事が多い、それから其次には御者、運搬者のやうな者、それから書記事務員、それが割合に多い、これは恐らくハイスクールを卒業した者がこれになるのでないかと思ひます。それから向ふではボーイ、使ひ歩き、メツセンジャーボーイが澤山居ると見えまして、これが多い、農夫の園藝、オハイオ市はそれ程大きな町でありませぬが、大仕掛の農

園がある爲めにそれも相當にある、それから荷造などの仕事をやる、それから各種徒弟、印刷職工、事務所のボーイ、ピラ張、擔き人夫、メリヤス製造、ブレイキマン、機械のブレイキを止める、エレベーターボーイ、セメント職工、電氣工、簿記工、先づこれが多い方です、まだ二十一人二人と云ふものがありました、これで見ますと一寸印を入れて置きましたが、この印のあるもの即ち書記事務官、農夫園藝とか、各種徒弟、印刷職工、メリヤス職工、電氣工、簿記、斯う云ふやうな方が相當に所謂熟練職工でなくても、熟練を要する仕事になつて居りますが、他の多くのものは、直ぐ分るやうに、多くは腕づくの仕事が多い、將來見込のない仕事が多いのであります。これに依つて見ましても或相當なる、將來熟練職工となり得る資格の者が、さう云ふやうな一時的のピラ張とか、擔き人夫のやうな者になつて居る者も少なくないであらうと思ひます。茲に職業指導の必要と云ふことを裏書する譯であります。

経験ト賃金トノ關係

年數	人數	一週賃金
1	194	弗 5.30
2	188	6.05
3	113	8.50
4	110	10.33
5	86	10.00
6	55	11.00
7	30	11.66
8	15	14.30
9	12	14.50

(七) 賃金と経験との關係

それから賃銀と経験との關係、それに依りますとこれは人間の數を平均したものであります、即ち一年経ちますといふと、これは學校を卒業して最初の年一年、ズツと仕事をして居る者それは丁度調査する時に滿一年にならない者、それが是であります即ち一ヶ月から、その次の滿一年になるまでの時期を含んで居る譯であります。以下それに習ひますが賃銀は斯ういふ風に上つて行つて居ります。即ち一年には一週五弗三十仙でありますが二年には六弗五仙、九年には十四弗五仙、斯うなつて參りまして

職業ノ種數 III 種
33種ニテ7%ヲ占ム

見習及一般労働	376
御者運搬者	256
×書記事務官	230
×使ボーイ給仕	157
×農夫園藝	130
荷造	79
×各種徒弟	69
×印刷職工	59
事務所ボーイ	57
ビラ張	49
擔キ人夫	48
×メリヤス製造	39
ブレーキマン制動手	25
エレベーターボーイ	22
セメント工	22
×電氣工	22
×簿記	11

約三倍近くなつて來る譯であります。

經驗すると云ふことから是だけの利益があるにも拘らず、先きに轉職したAなるものを見る時は、轉職する度に上つたり下つたりして居るのでありますからして、この賃銀と経験との上から見ましても、出來得る限り適當なものを初め與へてやる、その適當であると見込が付いたならば、出來るだけ長く繼續する様にしてやると云ふこと

がその本人の利益になる譯で、先きに申したやうにこの仕事、自己の仕事と云ふものを確立することが人格確立の基礎である以上、茲に道徳的意義を認め、職業指導の道徳意義を考へなければならぬ譯になつて居る譯であります。賃銀決定の上に最も重大なるものは、經驗であると云ふことであります。

所が之に依つて更に注意を要しますことは、それではこの賃銀の増加、一年に平均してどれだけ上がるかと云ふことを見たのであります。これは段々上つて行くこともありますが、一年やつて今五弗貫ふ、翌年は六弗をやる、一年やつた事に依つて俸給が昇つて行く所の平均を計算してありましたが、それに依りますと八百十八人の中で一年やつても二年やつても全然昇らない者が七十四人ありました。それからその増加が一弗から丁度三十七弗まで、三十七に分つて、ズツと細かく書いてありましたが、平均して昇るのは一年に二弗昇つて行くさうであります。斯くの如く一時に昇ることの多いのは、日本では到底見られない事實であり、之はハイスクールに入つて居るか

らであらうと思ふ。所が先きに申した通り八百餘人の間七十四人は全く昇らない、而も五年六年経つた所で昇らない者があるのであります。勿論昇り方の少ない者などは色々の事情がある。病氣もその理由でありませうが、或はまた恐らくはその人に適當なる職業でなかつた、心身に適當しないと云ふことである。或は轉々し歩く爲め本當の熟練と云ふものが得難い爲めに、斯様なことが現はれるものであつた。色々合せて見ると茲に吾々は職業指導上考ふべきことが起り、職業指導そのものが必要と云ふことを悟る譯になるであらうと思ふのであります。

(八) 職業と希望との關係

もう一ツ將來現に職業をやつて居りながら、何かアンビションを持つて居る、綿貫君もアンビションの話が出ましたが、其希望が現在やつて居る職業に就て希望を持つて居るものと、現在の職業でない他の方面にアンビションを持つて居るものごちらが宜いかと云ふことを書いてありましたが、矢張りその現在の職業に付てアンビシヨ

ンを持つて居る。この仕事を將來やつて立派にならうと云ふアンビションを持つて居る方は、現在に於て成績も非常に良く、賃銀もよく、將來又その男がその仕事に見込のある者である。突拍子もなく違つたものに、たゞモツと華々しいものをやつて見たい、變つた事をやつて見たいと云ふやうな方面に頭を向けて、それにアンビションを持つて居る者は、殆ど現在成績も悪い、勿論賃銀も悪いから他に變りたいのは當然の事と思ひますが、茲に又吾々が職業指導上注意を要する點がありはしないかと思ふのであります。

(九) 結論(職業指導の必要)

之に依つて茲に此調査を見ましての結論は、即ち職業指導の道德から見て必要であるといふ點、道德のみからでありませぬが、必要を認めて來るのであります。一番初めから概括して申しますと云ふと、

(一) 學校を退めてから後何もしない、遊んで居る者が随分ある、茲に吾々はその

前から職業指導上注意することが大いにある。

(二) 次に職業を求める場合、たゞ漫然とあれは面白さうだから入らうと云ふ風に入る者が八十五パーセントある。日本は恐らくモツと少なくなりはせぬかと思ひます。即ち日本は家族主義で親が非常に注意しますからであります。然し親そのものに智識がないのでありますから餘り大いした相違もないと思ひますけれども、茲に吾々は職業指導上必要なことを發見する。先きに申したやうに職業を轉々する、即ちよく心理學のツツの實驗の方法として、ツライド、エンド、エラー、メソッドでやつて見る、さうして間違つたら直してやらう。間違ふか成功するかやつて見よと、云ふ主義がありますが、之は非常に損失をする。國家的並に社會的に見たならば、即ち人間の能率を下げると云ふことが茲に起つて參るのであります。

(三) それから就職の後に於ける指導の方法である、本當に職業が適當であつたかどうであつたか、或は色々のアンビションを持つて居るなどはアンビションを適當に

指導してやる必要があります。方々へ轉々することに希望を持つ、その希望を持つのは果して適當であるかごうか、今の處に居つた方が適當ではないかと云ふことを注意して、中途變る必要があるならば、適當なものを指導してやる。茲に職業に就いてから後に必要があります。

(四) それから今度は經驗は成べく經驗して居る程賃銀が昇り個人として幸福であると云ふならば、出來得る限り適當な職業を與へてやつて、長く繼續してやるやうに注意して指導してやる。やはり茲に職業指導の必要がある、中等校卒業生であるに拘らず、熟練職工に向ふ者が少ない、モツと適當なる方面に向けて行く必要がある、勿論社會には各種の職業が必要である、ピラ張が必要なれば、その方へ向ける人間も必要であるけれども、頭のある者は相當の技能を練習すれば見込のある職業に入る必要があると思ひますから、適當な指導をしてやる必要がある。

先づオハイオ州の調査から見まして、大體斯様な方面から職業指導の必要がある、

殊に道徳的に見ると如何にも各方面に注意しなければならんと云ふことを見出すのであります。この次は日本の例で川越の分監に收容せられる所の十四歳から十八歳までの犯罪の年の職業を見ると、更に一層茲に道徳的意義を發見致すやうに考へるのであります、この次にそれを申して見たいと思ひます。

三 川越分監收容者に關する調査

唯今申上げました職業の種類及轉職、それからそれらの犯罪者との關係は、寧ろ日本の例を以て見た方が諸君の興味を得ることが大であると思ひまして、川越の浦和監獄分監の收容者の實例を申上げることゝ致します。この分監は御承知の通り少年犯罪者即ち十四歳乃至十八歳の者の犯罪者を收容することになつて居りますが、其の少年犯罪者の職業種類轉職等を見ますと云ふと非常に興味のあることを我々は此處に見出すことが出来るのであります。之を深く分析して考へて參りますと云ふと、此の職業指導の必要なこと、殊に道徳方面から一層我々の痛切に覺えることと信じて疑はな

いのであります。

(一) 犯罪時の職業の種類

先づ初に犯罪當時の職業の種類を御話して見たいと思ふのでありますが、大正六年大正七年大正八年と此の三ヶ年の間に此處に收容された全体の数が五百四十八人あります。其の五百四十八人の中で職業の種類は幾等あつたかと云ふことを見ますと、大正八年の時は五十九種、大正七年の時は七十二種、大正六年が八十六種、斯う云ふ譯でありまして、其の中で大多数の者は何かと云へば僅か十二種であると云ふことであります。其の十二種で以ての種類は五十四パーセントと云ふものを含んで居る。

少年犯罪者と職業

業種	人員	百分比
農業	六七	一二・三
紙屑拾	三七	六・八
合計		

無職	四九	九・〇
坑夫	二二	四・〇
土方人夫	二四	六・二
鍛冶職	一六	二・九
乞食	一四	二・六
出前持	二一	三・九
新聞配達	一五	二・八
牛乳配達	六	一・一
大工職	一〇	一・八
馬丁	六	一・一
計	二九七	五四・〇

斯う云ふことになつて居ります。其の中の一最多数は農業六十七人、それから紙屑拾

が三十七人、無職四十九人、坑夫二十二人、土方人夫二十四人、鍛冶職十六人、乞食十四人——乞食は職業ではないかも知れませぬが……出前持二十一人、新聞配達十五人、牛乳配達六人、大工職十人、馬丁六人、此のパーセンテージが五十四であります一番多いのは申すまでもなく農業であります、農業と申しましても相當な小作をやつて居る者とか、況や自作等をやつて居る家の子供でなくて、多くは極く小さい時に百姓の家に奉公に行つた者が大部分であります。従つて其の小供が必しも農業に本統に親んで、あの静な……罪から離れる傾の多い農に充分な熟練をして相當な収入のある者かと云ふと、寧ろさう云ふやうなものは殆ど缺けて居る所の農業の小僧に行つたやうな者が多い。此少年以外に相當な家の子供までが、農業を嫌ひ都會をあこがれて來る所、金持になりたい、一つ勉強しようとして、田舎を飛出して來たのが多いであります。是で見ても我々が職業の指導と云ふことに付ては餘程考へさせられるのであります、その事は尙ほ後に申します。

それからズツと後を見ますと云ふと農業以外の大多數の者は——大工職などは多少所謂熟練職工に入ります。それから鍛冶職も熟練職工に入りますが、其の他の者は殆ど皆一時的のものか、或はもう其の職業それ自身が不良性を帯びて居ると云ふやうなものに相成つて居るのであります。紙屑拾の如き言ふまでもない。無職も亦東京邊で相當な収入があつて無職ならば宜いが、到底収入のない何のやることもないやうな者でありますからして、是も亦不良性を帯びて居るのと言ふまでもない。土方人夫或は新聞配達或は牛乳配達或は馬丁、是等は皆それ〴〵職業其ものが多少不良性若くは危険性を帯びて居るものであります。斯様な者から多數の少年犯罪者が出ると云ふことは是亦當然の事であらうと思ひますが、前回御話申上げましたやうに、近頃の社會生活は、是等の誘惑の多い職業が殖えたと云ふ所の一例にならうかと言ふのであります。

轉 職 回 數

一つの職業に従事し
臨時迄轉職せざりし者

自大正六年
至同八年三ヶ年間新入者

人員

八八

百分比

一六・一

一回轉職せし者	一三三	九
二 回同	一一〇	二一・九
三 回同	九七	一七・七
四 回同	五四	九・九
五 回同	二三	四・二
六 回同	一六	二・九
七回以上同	一九	三・四
計	五四八	

(二) 轉職の回数

それから轉職の回数を調べて見ますと云ふと、此處にあります通りに收容される前に一回も轉職しなかつたと云ふ者が八十八人、一回轉職が百三十一人、二回轉職が百二十人、三回が九十七人、四回が五十四人、五回が二十三人、六回が十六人、七回が

十九人になつて居ります。斯う云ふやうな數でありまして、此處にも書いて御覽に入れました通りに平均致しまして二・八回轉職をして居ることになつて居ります。其の最も轉職回数が多い者は三年の間に十五回變つた職業をやつて居る。而も其の間で主人が二十六人も變つて居る。本統を言へば或は是は二十六回職業が變つたと云つても宜い位であります。それから其の次に多いのは三年に十四回、さうして主人を變へることが十七人、是も十七回轉職したと見て宜しい。もう一つは五ヶ月間に七回、斯う云ふやうに轉職に次ぐに轉職を以てして居るのであります。斯様に轉職の多いと云ふことは前回申上げたと同じやうに極めて我々の注意を要することでありませう。

自大正六年
至同 八年 三ヶ年間入監者
人員 百分比

三年以上同一業に就きたる者	一一九	二一・七
二 年 以 上	一三〇	二三・七

一年以上	一四三	二六〇一
六月以上	八六	一五〇七
三月以上	三五	六〇四
一月以上	一八	三〇三
一月未満	九	一〇六
職業に就きたることなき者	八	一〇五
計	五四八	

(三) 同一業務に従事する期間

其の次は同一業務に従事する期間の調査であります。一職業の繼續期間は三年以上繼續した者が百十九人、一年以上百三十人、一年以上百四十三人、六ヶ月以上十八人、三ヶ月以上十八人、一ヶ月以上九人、一ヶ月未満八人、斯う云ふことになつて居るのであります。所が是で見ますと云ふと割合に期間の長い者が多いやうに見える

のであります。此の非常に多いやうに見える者は大多数が農業の小僧に行つて居る者であります。百姓の家に奉公に行つて居る者又は農家の子弟は二年三年と云ふやうな者を大部分占めて居る。即ち六十何人かの者が殆ど二年三年と繼續して居る者であります。それから一つは子守に行つて居る者の如きは容易にそれから離れることが出来ませぬからしてさう云ふやうな者も非常に多い。それから矢張り昔の日本流の奉公に行つたと云ふ者が多い。主に一年二年三年と云ふやうな者は今申したやうな者であります。極く小さい時分、學校も終らない時分でありまして、或は甚しきは六七歳若くは十歳位の間迄に奉公したと云ふ者が多數を占めて居る。十四五歳から後に仕事に従事した者は殆ど三年も續くやうな者は殆どない。永く續いた者は極く小さい時分に行つた所の者に限るのであります。さう云ふ譯でありますからして大正八年中に百三十一人の受刑した者、即ち監獄に入つて來た者の中で、何かの職業の中で一通り會得して居るやうな者を調べて見た所が、僅か十四人であつた。或る職業に一通り會

得して居る、是だけであればマア相當な収入でも得られさうに思はれるのが十四人であつた。百三十一人の中で百十何人と云ふ者は全く腕がない、或は中途半端の者ばかりであつて、殆ど収入らしい収入を得られるやうな者がなかつたと云ふのであります。是で見ても如何に斯の如き犯罪をやるやうな者は自己の職業と云ふものに能率が低く従つて最後に各種の誘惑に陥り若くは自分自ら進んで誘惑の中に入つて来るやうな工合になる。此處に職業を得て自己の生活の資料を得、自己の生存を確立すると云ふことが道徳的に見て其の人格確立に大變な基礎をなすものであると云ふことを是等を見ますと痛切に感ずることが出来るのであります。

(四) 轉職の事情

然らば其の次に如何なる事情で轉職をやつたかと云ふことこの理由になるのであります。其の轉職の理由の一番主なるものは此にも書いてあります通り辛抱が出来ない、それから一つは悪いことをする、それから立身するためと云ふ此の三つが主である

やうであります。即ち立身せんためと云ふのは百五十三人、辛抱が出来ないと云ふのが三百四十三人、悪い事をしたためと云ふのが三百三十九人、斯う云ふことになつて居るのであります。是は回數の重なる度毎でありますから、先刻の五百四十八人とは多くなります。先づ是が一番多數でありまして、其の次に家の事情のため或は誘惑されたためと云ふのが其の次になつて參りまして、其の次に來るのは不幸に會つた、或は目的の不確實のため、自暴自棄其他と、斯う云ふやうな割合になつて居るのであります。

	人員	百分比
家の事情のため	九二	七・四
立身せんため	一五三	一二・二
不幸に遭ひて	五八	四・六
合 計		

病氣のため	四八	三八
辛抱出來ざるため	三四三	二七・四
不平のため	六〇	四・八
悪事を爲したるため	三三九	二七・一
誘惑されたるため	八五	六・八
自的不確實のため	四五	三・六
目暴自棄のため	一二	一〇〇
其他のため	一七	一・四
計	一、二五二	

而して家の事情とはどんなことか、少し分り難いのを詳しく申しますと、家の事情と云ふのは、即ち言ふまでなく家の暮し向の關係であります。お前僅に一日に拾錢や十五錢儲かつたのではいけないからもつと外のことををやれとか、外の家にやるとか

親が病氣のためとか、まだ其の外にあります、それから立身せんためと云ふのは言ふまでもなく何か職業を覺えたい、それから百姓の小僧に行つて居る者は商人になりたい、或はまた地方に居る者は東京へ行つて苦學をやりたい、是が先づ此の間申しました所のアンビションを持つて居る者で、現在の職業に見込がないから何か立身のためにと云ふ部類に入る譯であります。それから辛抱出來ない者は、三百四十三人ありますが、此の中で更に分けて見ますと云ふと、單に辛抱が出來ないと云ふのは百二十四人、此の仕事が厭と云ふのが七十六人、それから主人に叱られてヤケを起して出てしまふ者が四十五人、それから他所に奉公に行つて居つて貴様いかぬと云つて叱られて、今度はまた外の職業へ替る。或は家へ歸るのが五十八人、矢張り辛抱が出來ないで歸るのでありますからして、其の中へ入る譯であります。それから不幸に遭つたと云ふのは主に雇はれて居る所の主家が損をするとか、没落をするとか、或は主人が死ぬとか云ふやうなことを指して居るのであります。病氣は言ふまでもないこと。不

平は主人友達に對する不平。悪事をなしたるため、是は主人の金を使ひ込むとか、友達と喧嘩するとかは言ふまでもない悪事であります。誘惑される、目的不確實と云ふのは數はそれ程澤山でもありませんが、農業地方に御在でになる方に御注意申上げたものは唯單に東京へ行きたい。是は殊に浦和でありますから東京に近いですが、不確實で唯東京へ行きたい大阪へ行きたい、是が三百四十人の多數に上つて居る譯であります。それで斯う云ふやうな者は農業地方に於ては餘程御配慮を願はなければならぬことではなからうかと思ふのであります。この近くにある他の少年監獄は小田原にあります、その典獄補の黒田源太郎氏が矢張り永く少年監獄に居りまして研究の結果、最も注意を要するのは東京へ出たいと云ふ小供であると云ふことを痛切に感じまして極く薄い本でありましたが、『都市に出でんとする少年と其保護者の爲に』と云ふ本を書かれましたのを私が貰つたことがあります。其の中にどう云ふことが書いてあるかと云ふと、東京へ出る者のためには、其の華かな所だけでなく暗い所誘惑の所をどう

しても知らないのでありますからして、それを充分に注意をしてやる必要がある。それから勤勉と云ふことを充分に訓練された者ならば宜いが、それがされて居ない者は大抵の者は誘惑にかゝる。其の外親とか保護者の注意を喚起して居るのを記憶して居ります。誘惑されるのは人夫引にかゝるとか、悪桂庵にだまされるとか或は不良少年に出會ふとか云ふやうな種類であります。

163 — 導 指 業 職

斯う云ふ風に色々の事情のために轉職を致すのでありますが、斯うして見ると云ふと轉職も亦どうしても是が起ることは避け難いと見られることが澤山あるのであります。例へば家の事情、是も慥に轉職の一つの理由になることでありませうし、或は殊に主人が不幸に遭つたならば仕方なしに外の仕事をしなければらぬと云ふやうなことで、もう絶對的に避け難いやうなこともあるのでありますからして、矢張り前回申上げました如く職に就てから後の保護指導と云ふことを、單に個人の考だけでなく、嫌でも應でも變らなくてはならぬと云ふ時には、其の方面から見ても非常に注意を要する

ここでありませう。況や他の事より申しませうと同じやうな辛抱出来ないとか、不平であとか、或は誘惑されたとか、自暴自棄であるとか、目的不確實であるとか、斯う云ふやうなものに對しては道德方面から見ましても、また更に將來良い方に進むに付きましても指導を要することが多大であることは言ふまでもないことでもあります。

(五) 轉職の回数と事情との關係

で次にもう一ツ私共の餘程注意を要することは、轉職の理由が、轉職の回数と變る毎に段々多少宛變つて行くこと云ふことでもあります。是がまた道德的に見て私共の餘程注意を要することであると思ふのであります。即ち此の表にもあります通り、

轉職回数	辛抱出来ざる爲		惡事を爲したる爲		立身せん爲		家の事情の爲		誘惑せられたる爲		
	人員	百分比	人員	百分比	人員	百分比	人員	百分比	人員	百分比	
一回	四六〇	一三四	二九二	五二	一一三	七六	一六五	八三	一八〇	一四	三〇
二回	三二九	一〇八	三二八	七四	二二五	五一	一五五	一〇	三〇	一八	五・五
三回	二〇九	五七	二七二	七七	三六九	一九	九一	一	二〇	九・六	

四回	一一二	二七	二四一	五五	四九一	三	二七	一	一四	一二・五
五回	五八	一二	二〇七	二六	四四・八	三	五・二	一	一〇	一七・二
六回	三五	四	一一〇	二〇	五七・一	一	二・九	一	四	一一・〇
七回	一九	一	五三	一四	七三・七	一	一	一	二	一〇・五
八回以上	三〇	一	二一	七〇	〇	一	一	一	四	一三・三

一回轉職した者が四百十六人、二回が三百二十九人、三回が二百九人、四回が百十二人、五回が五十八人、六回が三十五人、七回が十九人、八回以上三十人、斯う云ふ割合になつて居りますが、辛抱が出来ないための轉職は百分比でありますこと云ふと、一回、二回、三回、四回、五回までは割合に多いのであります。二回目が一回より殖えただけで、一回が二九・一パーセント、二回が三二・八パーセント、三回が二七・二パーセント、四回が二四・一パーセント、五回が二〇・七パーセント、斯う云ふ風に段々減つて行つて居ります。それから立身したいため斯う云ふのも先づ段々減つて行きます。即ち一回が一六・五パーセント、二回が一五・五パーセント、三回が九・一パーセン

乃至十八歳の少犯罪者が收容されたことになつて居ります。其の中で殆ど過半数と稱

自大正二年
至同八年
七年間川越分監少年受刑者

窃盗	強盗	詐欺	横領	赃物	文書偽造	傷害	殺人	放火	住居侵入	往來妨害	賭博	猥褻	其他
1,349人	30	142	71	8	14	20	15	78	5	10	4	5	6
192.7人	4.3	20.3	10.2	1.2	2.0	2.9	2.2	11.1	0.7	1.4	0.6	0.7	0.7
76.8%	1.8%	8.0%	4.0%	0.5%	0.8%	1.2%	0.8%	4.5%	0.3%	0.5%	0.3%	0.7%	0.2%

七年間少年總受刑者 平均少年總受刑者 百分比

して宜いのは窃盗でありまして千三百四十九人で百分比が七十六と云ふことになつて居るのであります。で此の少年犯罪の大多數は窃盗であること云ふことは是は世界中の事實であります。私の著書である『補習學校の組織及經營』中に書いてあつたかと思ひますが、先年の調に依りますと、獨逸に於いても、矢張り六十七パーセントがさう云ふやうになつて居ります。それから警視廳で少年犯者の捕へられた者を調べて見ると云ふと、矢張り六十八パーセントが少年犯罪であります。大阪の警察でも矢張りそれでありませう。それから亞米利加の例を見ても矢張り六七十パーセント、少くとも最低五十四パーセントと云ふことであります。其の理由は申までもないことであります。

彼等の大多数は貧乏人が多いのでありますから、従つて何か食べたいとか、或は活動寫真を見たいとか、ちよつとした所の動機からさう云ふことをやり出しますから、ごうしても此の窃盜が大多数になるのは當然のことでありませう。

それから強盜であります、僅か十八歳までの間に三十人もある。之は窃盜が度重つて非常に悪性となつたのであると思ひます。詐欺が百四十二人、横領が七十一人、放火七十八人、人を傷けたと云ふのが二十人、文書偽造が十四人、住居侵入が十五人、贓品五人、賭博十人、猥褻八人、其他十五人。斯う云ふやうなものになつて居るのであります。之を見ますと云ふと小供のことありますからして、文書偽造であるとか、或は詐欺であるとか云ふやうな頭の要る、所謂智能犯に屬するやうな者は少い。さうして大多数は衝動犯でヒョツとした機會に罪を犯すと云ふやうな者が大多数である。智恵も要らない、計畫することもさう要らない、もう其の場に臨んでヒョツとやれるやうな衝動犯が大多数であります。是は少年としては無理からぬことでありませうが、

それが殆ど八〇パーセント以上もそれであると云ふことは我々が氣を付けて行くべき必要があるものと思ふのであります。

それから一体どう云ふ性質の者がさう云ふ罪を犯し易いかと云ふことを調べました所に依ると、文書偽造以下の數の少い所を除きまして、比較的犯罪の多い所だけに就て見ますと云ふと、其の性質を斯う云ふ風に分けてあります。懦弱、狡猾、放縱、輕躁、疎放、陰鬱、魯鈍偏狹、其他、マア大體斯う云ふ風に七ツの性質に分けて見ますと云ふと、窃盜はこれにも付いて居ると云ふことを直ちに知ることが出來ます。併し一番多いのは矢張り言ふまでもなく懦弱の者、優柔不斷で何をやることもなしに遊び暮して居るやうな者、それから放縱、我儘勝手、氣隨氣儘な者、是が多いのは言ふまでもないことであります。

それから狡猾な奴は窃盜をするのに上手でありますからして是が多いのは當然、それから輕躁、それから疎放などもありますが、先づ大体放縱懦弱狡猾の者であります

それから強盜、是は懦弱な奴では強盜などの氣の利いたことは出来ませぬから放縱な奴が一番多い。それから詐欺、是はまた詐欺でありますから狡猾なのが多い、我儘氣隨の奴でなければ出来ませぬからして是等が大多數で、疎放輕躁陰鬱の者には出来ませぬから、斯う云ふやうな者は減つて居ります。殊に愚鈍な奴は出来ない。罪質と性質との關係を宜く現はして居ります。横領と云ふのは狡猾のやうな者は出来ない、まだ輕躁疎放の者は出来ないと見えて懦弱な者がやるから之に集つて居る。それから放火、是はまた宜く現はれて居ります。懦弱放縱なる者は斯う云ふものに目を付けないと云ふ譯で、狡猾輕躁、放火などは疎放な者はどうか知らぬが陰鬱、是が放火と關聯して當然のことであらうと思ふのでありますが、比較的少くはないのであります。先年東京市猿江小學校へ火を付けたのも犯罪性のもので同時に陰鬱性ものであつたと記憶して居ります。傷害と云ふのは其他の中へ入つて居りますが、先づ最も我々の注意を要するのは窃盜強盜詐欺、此の邊の所の性質と罪質との關係であります。

犯由 罪名	罪質(百人)ニ對スル各犯由ノ割合										
	遊惰	買喰	常習	出來心	遊蕩	活動 寫眞	買喰活 動寫眞	怨恨	怠惰	其他	計
窃盜	五〇	五	一六	五	七	一	八	一	三	六	一〇〇
詐欺	三四	一一	一	二二	二二	一	一	一	一	一	一〇〇
横領	一〇〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇
放火	一	一	一	一	一四	一	一	一	七一	一五	一〇〇
傷害	一	一	一	一	一	一	一〇〇	一	一	一	一〇〇

(七) 犯罪の理由

それから更に今度は斯う云ふ性質で、斯う云ふやうな罪を犯した者であつて一体其の罪を犯した所の犯罪の理由又は直接の動機であります。何故竊盜をやつたか何故強盜をやるやうになつたかと云ふ犯罪の理由を調べて見ますと面白いことがわかります。之とこの人の性質の割合を見ますと、此處に遊惰、それから買喰をやりたいために、

常習犯で繰返した奴、それから衝動犯の中へ入りますが出来心でやる、それから遊蕩買喰と活動寫真とゴツチャませにした奴、怨恨嫉妬、それから怠惰、其他、斯う云ふ風に分けて見ますと云ふと、矢張り大多數は遊惰、總てに引つ付いて居るが懦弱な者が一番多い。それから何か食べたい、食べたいが金がない、何か盗んで食へ、斯う云ふ風になつて參ります。それから常習的の者は度し難い度すべからざることになるそれ

罪質(百人)ニ對スル各性質ノ割合

性質	罪質				其他	計
	懦弱	狡猾	放縱	輕躁		
窃盜	二七	一二	三九	六	七	六
強盜	—	—	五〇	—	—	—
詐欺	一〇	三〇	三〇	一〇	—	—
横領	一〇〇	—	—	—	—	—
放火	—	一五	—	二八	—	—
					一五	一五
						二七
						一〇〇

執拗愚曲。偏短慮狹。魯鈍

傷害 一 一 一 一 一 一 一〇〇 一〇〇

から出来心。それから遊蕩、是は遊惰のも一つ進歩した奴。それから活動寫真、是は數が割合少いのは川越の如く埼玉縣とか群馬縣とか茨城縣とかの比較的活動寫真などの少い所の少年を入れる關係でありませうが、東京を中心にしたら、もつと多いであります。それから小供の事でありませうから怨恨嫉妬と云ふことは少いが、ちよつと腹を立てると云ふと直ぐ罪を犯して傷害とか若くは殺人になる。ナマクラな遊惰とか遊蕩とかが先づ段々と増進して行く傾向になつて居る。さう云ふ割合になつて居るのであります。之を見ますと云ふと、これを見ても自分のやつて居る仕事と云ふものに對して興味を持つて居るが仕事と云ふものに對する道德的の考は何も持つて居ない者が大多數であると云ふことがよく分ると思ふのであります。此の行、之を見まして一生懸命に眞面目に仕事をやつて居る者は一人として斯う云ふ罪を犯す者が少いと云ふことを此處に言ひ得ようと思ふのであります。

尙ほ是と關聯しても一つ面白いのは少年監獄へ送られた者の年度に依つて違ふこと
 であります。是は直ちに間違なしと斷定することは出来ない私が只表を見て思ひ付い
 たことでもあります。大正六年が二百三十二人、大正八年が百三十一人、是で見ると
 段々減つて行く、他の理由もあつたと思ひますが、是は戦争の間に景氣が好くなつて
 働き口が澤山殖えて來たために罪を犯すことが少くなつたと思ひます。二百三十二人
 と百三十一人、百人も前年に比べて減つて來ると云ふのは景氣が好くて何處へ行つて
 も働き得る、働きさへすれば食へると云ふために少年の犯罪が少くなつて來たのであ
 る。之を見ても少年を適當に指導し職業を與へて犯罪をやらぬやうに防ぐだけに於
 ても非常に大切なことである。況やそれが段々と適當な職業に指導されて行けば、犯
 罪どころではなく、其の仕事が進歩して參りましたならば、一層今度は進歩したる道
 徳的の形に依りまして眞正なる修養になると云ふことを此處に我々は信じて疑はない
 のであります。

八、概括

此の犯罪をするやうな職業と性質との關係と云ふやうなことを此處に概括して見ま
 すと云ふと、斯う云ふ風にならうかと思ひます。第一に職業の尊ぶべきことを知らな
 い、一人として眞面目に仕事をやつて居る者が無い。それから一つの職業を習つて他
 日自分の生活の基礎としよう、一生涯の基礎としよう、少年の間に能く之を習つて置
 かなければならぬと云ふやうな考を持つて居る者が殆どないと云つて宜いのでありま
 す。さうして是がまた犯罪者の殆ど共通した性質であります。成る可く自分の勞力
 を避けてさうして安逸を貪らうとする。それから斯う云ふ様な三つの性質、即ち働く
 のがいや、勞力を避けたい、安逸を貪りたいといふ性質及持つて生れた性質に附加へ
 て、更に今度は先刻申しましたやうな轉職と云ふやうなことも起つて來る。即ち自分
 の希望に副はない時は忽ち其の家を出て他の家に替る、父兄とも衝突する、我儘勝手
 なことをする、主人にちよつと叱られると、こんな無理な主人の處には居ない。斯う

云つて直ぐ飛び出してしまふ。自分の忍耐の足りない所、自分の悪い所を問はないで直ぐ飛び出す。それから勞を避け安逸を貪りたい心がありますからして、是は俺には出来ぬと云つて又其の職業を捨て、しまふ。しまひには勤勉忍耐と云ふやうな性質は見たくも無いと云ふやうになる。斯様にして轉職に次ぐに轉職を以てして、轉職の癖は纏て又怠惰癖になつて、此處に怠惰遊蕩、此の性質が段々と増し、此の行が増進して來る譯であります。斯くて三年經つても五年經つても何等習得したる技能なく轉々流浪して行つて、明日の物どころではない、今の眼の前の物を食べたい、眼の前のを食ひたい、ほしいで直に手が出て最後には斯う云ふやうな犯罪を起して、此處に窃盜が大多數になつて來ると云ふことになるのであります。

(四) 貧民窟の子供の實例

是で先づ大體職業指導の道德的に必要な各方面の理由を、明かにした譯でありま

すが、此の東京の中でも、殊に最近私の友達の中で木賃宿の澤山ある所の學校に行つて居る立派な先生が御在でになります、其の人の話を聞きましたが、其處の學校の小供で、年が相當になつて參りますと云ふと、其の町の附近で開かられる夜店へ行つて萬引をしない者が無いと云ふ位である。またその親達も萬引をしないと云ふと此の意氣地なし奴がと云うて叱る。それですから小供は萬引をする、さうすると捕へられ、ママ小さい奴であるからと云ふので萬引されかけた所の主人が放してやる。若くは親を連れて來て辭れ、さうしたら許してやると云ふことになる。先づ親を引つ張つて來ると云ふと、親が萬引された所の主人に誤る前に、第一に親が其の子供を此の馬鹿野郎奴がと叱ると云ふのです。斯様に人間のドン底に陥つた所の其の原因は何かと云へば、要するに各方面の原因もありませうけれども、本當に有力なるものは自己の職業と云ふものに對して之を愛する念のない、自分の生活資料を正しい道に依つて、所謂額に汗して之を得ようと云ふ考のない者が多いと云ふことが根本になる。そ

れが大きくなつて各種の事情に依つて醸成されるのも多いが、要するに是等は我々教育者として又社會政策に關係のある者として、痛切に考へなければならぬ點であらうと思ふのであります。

斯様に私が亞米利加のオハイオ州に於ける調査、日本の川越分監に収容される少年犯罪者の職業と之を相照しまして、要するに我々が教育上考へなければならぬ點はもう一遍此處に三分間か五分間の間に申して見て結論に致したいと思ふのであります。

第四 職業指導の概念

先づ之を個人的に見ますと云ふと、先づ利益のために即ち先刻申しました我々の生活の資料を得て、さうして自己の存在確立てふことのために出來得る限り各人をして利益の多い方面に従はさなければならぬ、之には物質的利益と身體健康のために適當なる職業を得る必要が出來るのであります。それから更に進んで其の人の身體及

び性質、斯う云ふやうなものに適應する所の能率の増進と云ふことから云つても、職業指導の必要を起すのであります。それから一つ先刻特に私が力説致しました所の品性を全くするため、適當なる職業を擇び適當な活動勤勞に依つて、さうして自己品性の基礎を拵へにかゝる、さうして進んで段々と自己品性の修養に努めるやうに指導をして行かなければならぬと云ふことが分るのであります。

之を社會的に見ますと云ふと、殆ど是は道德的のものになつて來る譯であります。各人をして社會に對する責任を果させるために、ごうしても適當なる職業を與へてやらなければならぬと云ふことが起つて來る譯であります。斯くして前回にも申しました如く各人をして色々の方面の社會奉仕が必要であります。先づ第一歩として自己の職業を以て社會奉仕をするに云ふ人を充分に鍛練陶冶をしなければならぬと云ふことは痛切に考へる次第であります。

其の次は社會の能率を上げる、個人の能率が上るならば自ら社會各方面の能率が上

るのでありますからして……此の點は水野君が詳細に御話されることと思つて居りますが、社會の産業能率が上つて來たならば自ら安い品物を手にいれる譯でありますから各人が利益をする。その福祉が増進して來る譯であります。

斯様にして個人的及び社會的に見て、職業指導の必要と云ふことを感ずると同時に、従つて斯様に益のある、斯様に複雑な色々考へなければならぬ點があるのでありますからして、此の間申します如くやつて見よう主義、ブツ突つて見てそれが悪ければ、あれをすると云ふトライアル、アンドン、エラー、メソッドと云ふことは、此の職業を選択すると云ふことに應用してはならぬと云ふことを痛切に知ることが出来るのであります。

さうして見ますと云ふと、茲に我々の注意をしなければならぬことは、先づ第一に教育上考へて參りますと、(一)各人に職業の意義と云ふものを能く知らしめて、一般に通ずる技能を練り、勤勞の趣味を養ひ、職業道德を涵養すること、是が最も根本に

なつて參ります。是が先づ大体から申しますと云ふと、最初に於て私共の職業教育と云ふことを力説致したいのは主として此の第一であります。此の職業、あの職業でなくして、一般に通ずる技能を練る、勤勞の趣味を養ふ、職業道德を涵養する、是が最も小學校其他の普通の學校で養はなければならぬことであらうと思ふのであります。(二)それから其の中に高等小學校位の程度になつたならば、或は六年位になつたならば、職業に關する智識——難易特色、それから賃銀、後來の發展、斯う云ふやうなものはどうであるか、斯う云ふやうなことを知らしてやる必要があると云ふこと。(三)それから自己の性質、體質に關して反省せしめる、是が自己分析である、平生に於ても、自己分析も自己反省も必要であります、殊に將來の職業を選択する上に於て必要になつて來る。以上の一、二、三、から考へまして自己の職業を選定して行く、さうして選定した職業は成るべくそれに近い職業を見出して行く、それに依つてやつて行くと云ふ事になるのであります。今度は、(四)就職後の心得、(五)轉職の不

得策なること、(六)絶えず修養すること勤勉なること、斯う云ふやうなことを常に守らせることが必要である。

所が一から六まで何處を見ても、假りに小供と致しましたならば自己自身の力ではすることの出来ないものであります。假りに一の方法は學校に居る間に先生から多少の教養指導を得ると致しましても、二、三、四、五、六、此の五方面のことは到底小供ではいけない。況や現在の大多數の職業の指導をしてやる必要のある所の貧困者若くは下級下層社會の小供には到底是は出来ない、親にも出来ない。従つて小供にも出來ず親にも出来ないことは、學校の教育及び教育の社會政策的の方面から之に力を注いで行つてやる必要が此處に生じて參るのであります。是即ち職業指導が起つて來た所以でありまして、此處に職業指導の起原を最後に一言して私の講演を了へたいと思ふのであります。

で此の職業指導と云ふことは、まだ本當に起つて參りましたことは二十年かそこら

の極く新しいことで、職業指導と云ふやうな名前が無くして、唯職業の選擇と云ふやうな意味で、若くは紹介と云ふやうな意味に、それに少し毛が生えたやうな意味で、十九世紀の頃に獨逸に於きまして、殊にミュンヘンあたりでは中々氣を付けてやつて居つたが、それは唯職業紹介所と學校と親達と聯絡する位に餘り深く考へて居りませぬ。尤も其の當時と雖も性質はどうか、成績はどうか、技能はどうかと云ふやうな方面を多少考へて居ります。また無論學校の裏書等も付けましたけれども、今日のやうな職業指導にはなつて居なかつたのであります。

それが英國に於て此の貧困者等の研究が進んで參りまして、ブアー、ローズ(貧困法)制定委員と云ふやうなものが出來ました時に、獨逸へ行つて未だ職業紹介位な程度でありましたが、之は結構なことだと云ふことを千九百八九年頃になつて、英國にもやらなければならぬと云ふので始めました。それから段々と進んで參りました。尤も亞米利加にも千九百年前にもあつたが、先づ千九百八九年頃から研究され實施され